

告又ハ被告ヨリ
差出シタル証拠
ノ書類ノ写

第五 訴訟中訴狀

ニ關係スルノ事

件ニ付原被告方

性復ノ文書

第二條 証人並ニ引

合人

手當一日ニ付半錢

何郡何村番地何某ハ讓渡候條右公
債証書相添差出候間御檢印被成下
度此段奉願候也

年月日

住所番地

氏

名印

○公債証書御引替金並二年々利
子拜受之儀御願

一公債証書何百何拾圓也

一何百圓

此ニ記載ス

但シ八里以外ヨリ

罷出止常ノ者ハ二

十五錢ヲ増ス

右定限

裁判所ニ出席為

シタル日

第三條 証人並ニ引

合人滿八里以外

ノ地ヨリ來リ滞當

中ノ手當一日ニ付

右所持罷在候處此度何府何國何郡

何村番地ニ寄留仕候ニ付右証券追

テ御引替之金並二年々利子御渡之

儀者右寄留地ニ於テ拜受仕度此段

奉願候也

年月日

住所身分

氏

名印

○公債証書御買上願

一公債証書何千何百圓也

五十錢（本條分明
九年四月司
法省甲第六号并違
ヲ以テ執行停止

第四條 證人並三引

合人旅費 滿八

里ニ付十錢（歸路モ
全斷

但シ八里ヲ越ユレ

ハ每滿二里ニ付十

錢

右定限

右者去ル何年何月家祿何百石奉還

相願候処既ニ本年何月正金何百何

拾圓奉拜受候（且亦本年何月右公債
証書御下ケ渡ニ相成

然ルニ未ケ渡ニ不相成候得共今般公

書御下ケ渡ニ不相成候得共今般公

布ニ基キ御買上ニ相成度此段奉願

候也

年月日

住所身分

氏

名印

○貯金預リ御願 兼一式

第一 兩線ノ官道

甲路ハ遠ク乙路

ハ近キ時ハ現ニ

甲路ヲ經ルト並

モ乙路ヲ以テ計

算スヘシ

第二 水條ハ日本

國管内ヲ通行ス

ル者ノ為メ設ク

第五條 原告人又ハ

私儀日々渡世万事節儉ニ活計相立

テ候処聊ノ餘金何程出来候ニ付何

地郵便役所ヲ經テ御本寮へ御預リ

相願申度依之御聞届相成候上ハ總

テ御規則之通相守可申此段奉願候

候也

年月日

住所身分

氏

名印

驛遞頭氏名殿

被告人直ナル者、
手當 一日二付五
十錢

但シ八里外ヨリ罷
出止宿スル者ニ
十五錢ヲ増ス

右定限

第三條ニ同シ

第六條 原告人又ハ
被告人直ナル者ハ

前書之通氏名願之旨相違無之候
右ニ付若シ不都合之儀出来候節ハ
証人引受可申候也

住所身介

氏

名印

○全 第三式

今般同志之者共何名申合セ私其終
代人ニ相成平素生産節儉之餘金何
程何地郵便御役所ヲ經テ御本寮へ

里以外ノ地ヨリ来
リ滞留中手當

一日二付五十錢

(本条ハ明治九年四月
司法省甲第六号布達
ヲ以テ執
行停止)

第七條 原告人又ハ

被告人直ナル者様

賞 満八里ニ付十

錢 歸路モ全断

但シ八里ヲ越スレ

御預リ相願度一同之了簡ニ罷在候

間右之儀御聞届ニ相成候上ハ終テ

御規則之通ニ相守可申候依之同志

之者連印ヲ以テ奉願候也

住所番地

氏

名印

年月日

氏

名印

宛名全上

已下連名

○全 第三式

私儀何地郵便御役所へ貯金御預リ

ハ每滿一里ニ付十

錢

右定限

第四條ニ同シ

第八條 通辨賃料

一日ニ付三圓

右定限

第二條ニ同シ往返

旅費ヲモ定額通

計算スヘシ

相願置候処今般適宜ニ依リ何地郵

便御役所へ預ケ替相願度候尤モ其

御役所ニ於テ向後従前之通預ケ方

並ニ受取戻シ仕度候間宜敷御指令

奉願候也

年月日

住所番地

名印

宛名五上

書面願之趣當役所ニ於テ更ニ差支無之候ニ付此段御聞届被成度也

第九條 翻譯料

(一枚ニ付十六行十
五字語ニ円但シ一
枚以下
モ全價)

右定限

第一條ニ同シ

第十條 測量繪圖料

右定限

第一長三百間ニ

テ尽ル時ハ

何縣何郡郵便役所詰

年月日

氏名印

何縣何地

郵便役所

氏名殿

○全 第四式

一金何圓也

右之金額受取戻シ度何地郵便御役所ニ於テ御渡可相成之旨被仰渡度

百間ニ付二天割
西ノ内一枚ニ付
十錢

第二 長六百間迄
百間ニ付五十ノ
割西ノ内一枚付
十二錢

第三 長千二百間
迄
百間ニ付三十ノ

此段奉願候也

年月日

在所番地

宛名全上

氏

名印

前書出願之趣証書式及通帳共
照查致候處相違無之ニ付右証
書何枚相添へ此段申入候也

何辦何邸何地

郵便役詰

年月日

何辦何地

氏

名印

割同十四錢

第四 長六千間迄

百間ニ付二十ノ

割同十七錢

第五 長一萬千

間迄

百間ニ付一十ノ

割同二十錢

第六 長一萬二千

間以上

郵便御役所

氏名殿

○全 第五式

一金何圓也

右者私預ケ金額金高款ニ候処今般

何地郵便御役所ニ於テ受取戻シ度

候依之御指令書被仰渡候様奉願候

也

氏

名印

百間ニ付五分ノ

割同廿四錢

一測量ニ及ハサル見

取繪圖ハ間敷長

短ヲ論セス大凡見

積ヲ以テ簡便ニ

圖引致ス可シ

但シ西ノ内一枚

ニ付十錢

第十二條 使賃

宛名全上

前書願之儀不都合無之候間願之

通御開届指合狀即チ被渡下候也

何所何地

郵便役所請

年月日

氏名印

氏名殿

○差入物御願

一何品

一何々品

満一里毎三十錢ニ

里未滿八五錢

但シ歸路モ合斷

右定限

第一 裁判所ニテ

示談中双方承諾

ノ上原告被告及

方又ハ一方ノ者

ヨリ遣シタル便

賃

一何點

右者何月何日ヨリ懲役場監倉又羅

在候私夫或ハ父兄誰ハ書面之品々

差入申度奉存候ニ付此段奉願候也

住所番地

年月日

氏

名印

○水車營業業御願

何郡何村之内

字何所私有地

新撰書式

第三 裁判所

示談中原告又

被告一方者裁

裁判後檢印

送タル使賃

第三 原告又八被

告一方者出訴

中違約シテ出

席セサ時裁判

役ノ檢印ヲ送テ

一水車 何ヶ所

車輪差渡

粉確數

挽

何柄

右者新規營業仕度尤モ土地或ハ用

水路等ニハ聊カ故障無之候間別紙

書面ヲ以此段御許容之程奉願候也

年月日

住所番地

氏名印

違約ヲ責ムル使

賃

第四 原告被告双

方ノ為メ又ハ一

方ノ為メニ双方

又ハ一方ノ者ノ

申上ニ内リ裁判

所ヨリ臨時ニ違

ハシタル使賃

第十二條 郵便電信

○板圍之願

一私抱屋敷第何番地空地へ新規建

家仕候ニ付本日ヨリ来ル何月日迄日

數何日之間板圍仕度尤モ往來之妨

ニ不相成様可仕候間此段奉願候也

住所番地

年月日

氏名印

足代之願

一私居宅表口何間家根先破損致シ

新撰書式

三百八十二

電信料 定價

右定限

第十二條 二全シ

第十三條 身代限ヲ

為スニ付裁判所又

ハ縣廳又町役場ニ

納ムハキ評價人鑑

定人等ノ日産賃金

ノ諸入費及モ身代

限諸雜費 臨時

候ニ付普請中本日ヨリ來ル何月日

迄丸太木ヲ以テ足代致シ度奉存候尤

モ往來之妨ケ不相成様可仕候此段

奉願候也

住所番地

氏名印

○家作成功板圍取拂届

一當何組何村何番地私抱郎表口何

間ノ建家新規造作仕度候段本年何

計算ヲ以テ定ム

右ハ前數條ノ會

ニ先ツテ取立可

明治十二年十月廿七日
司法省布達甲第百三号

明治九年第五号布達

訴訟入費償却規則中

差添人ニ係ル件々一

切刑除候条自今民事

訴訟差添人費用ハ

月日奉願大道兩落御檢査之上御開

届ニ相成御書下通普請仕則成就仕

候間板圍取拂申度此段奉願候也

年月日 住所 氏名印

○物品献上御願

一何品 何程

一何品 何程
右者尔聊何々供用ノ為メ献上致シ

新撰書式文拾

訴訟入費トシテ讀

スルヲ得ス此旨布

達候事

(明治十二年三月十四日)

司法省達丁第百十号

民事訴訟上ニ付人民

喚出狀送達費用等

余儀ナク一時裁判所

ヨリ立替渡シタルモ

ノハ其時々直チニ詞

訟人ヨリ取立ヘシ但

度此段奉願候也

住所番地

年月日

○献金御願

身分

氏

名印

一金何程

右者當願下貧民學校或ハ御設立

ニ付御資金ノ内ハ御採用被成下度此

段奉願候也

住所番地

ニ裁判落着上六曲

者ノ辨償ニ帰スハキ

ハ勿論タルヘキ事

右ハ為念此旨相達候

事

(明治十二年七月廿日)

司法省達丁第百十号

訴訟入費云々ノ義

一年丁第百十四号ヲ

以テ相達置候在

通改達候条此旨可心

年月日

氏

名印

○拾物御届

一紙幣

何拾枚

内 壹圓

拾錢

何枚

一何品

何箇

右今何日午餉何時頃何所通行致

拾得候間此段御届申上候也

年月日

住所番地

氏

名印

新撰書式文拾

得事

訴訟入費ハ曲者ヨ
 リ直者ニ辨償スヘ
 キハ當然ノ事ナ
 ニ付裁判言渡ノ節
 ハ必入曲者ノ弁償
 ニ歸スヘキ旨言渡
 スヘシ
 (明治十二年三月十四日
 司法省達丁第十号)
 裁判費訴訟費ノ義

○盜難御届

本月何日又ハ表裏ノ戸口等夫々締
 リ相付家族一同相卧候処何時目ヲ
 覚シ又物音家内ヲ見廻リ候処何処
 ヲ切破リ或ハ押盜賊忍入又ハ抜刀
 出金銀可差簞笥所ノ何錠前ヲ破
 リ金銀衣類左ノ目錄ノ通盜取事ハ
 テレ候此段御届申上候也

ニ付別紙ノ通大審院
 へ相達候条此旨急
 得相達候事

大審院へ達 (明治十
 二年三月
 三叶)

裁判費訴訟費ノ義
 過般及答議候処有
 取消シ別紙ノ通相達
 候事
 別紙

住所番地

名印

年月日
 (別紙) 被盜品目錄

金何百何十圓何錢

内 紙幣 何圓

銅貨 何程

衣類 何点

何品 何点

右之通ニ候也

第一例

初告ニテ(原告甲勝)

七入費ヲ拂フ

控訴ニテ(原告甲勝)

甲ハ初告控訴兩

件ノ入費ヲ拂フ

(破毀セズ)上告ニテ

テノ入費ヲ拂フ

第二例

○遺失物届

一金貨 何程

一何品 何点

右者昨何日午前後何時頃何所ヨリ何
町追通行人途中ニテ取落候間此段
御届申上候也

年月日

住所番地 氏

名印

○改印届

初告ニテ(甲勝或ハ)

勝トモ

控訴ニテ(甲勝)

初告控訴入費

ヲ拂フ

(破毀ス)上告ニテ(甲勝)

七ハ上告入費ヲ

拂フ而シテ甲ハ控

訴マデノ七ノ入

費ヲ既ニ償ヒシ

改印

右者私從來所持之實印ニ候處磨滅
仕候ニ付更ニ改印仕候此段御届申
上候也

住所番地

身分 氏

名印

○實印新調届

年月日

右私儀從來實印無之ニ付今般印鑑

ナラバ取返スヘ
之通新彫仕向後相用ヒ申度候間此
段御届申上候也

第三例 此例ハ大審院
ニ於テ破毀シ
タル後第二ノ上等裁
判所ニ移シタル場合
ナリ

此時負者ハ初告ト
第一控訴ト第三控
訴ト都合三件ノ入
費ヲ拂フ可シ上告
入費ニ至テハ其上
告ノ負者之ヲ拂

年月日

住所番地

氏

名印

但シ戸長役場へ届出若シ土地ヲ有スル
者ハ地方廳へ届出地券臺帳へモ調印ス
河

○孝子届

何國何郡何町番地

身分職業

何誰何女

第二控訴ノ負者
ハ之ヲ拂フベキニ
アラス

第六章
訴訟用封紙規則
明治八年十二月廿日
布告第百九十五号

今般訴訟用封紙規則
別冊ノ通相定來明治
九年三月十五日ヨリ
施行候条此布告候

右ノ者共義父誰没後引續母たれ
儀モ永々病床ニ打卧シ暮方差支
候処姉たれ儀ハ町小使ヒニ相雇ワ
レ其間ニハ晝夜トモ妹たれト債仕
事等無怠相勵ミ殊更在宅中ハ母
ノ側ヲ離レス其日見聞ノ事共物

何年何月

何女

何年何月

新撰書式文格

三百八十七

事

訴訟用封紙規則

第一條 凡訴訟ヲ生

シ公裁ヲ仰ガントス

レハ此規則第九

條中第二項第三項

第三項第四項ニ照

準シ原告被告人共裁

判官ニ差出ル封紙

及ヒ証書ノ写等ニ

語リ兎角病人ノ心ヲ相慰メ姉妹睡

敷活計相管難決ノ中孝養相盡シ

実ニ可賞譽者ニ御座候間此段御

届申上候也

何郡何町番地

年月日

○節婦御届

何國何郡何町番地

切ノ書面ハ其類ノ

封紙ヲ用フ可キ事

但訴答等ノ表

紙書式等ハ訴

答文例ノ通ル

ハキ事

第三條 訴答文例中

原告人ハ取ルヘキ

被告入住所書體並

此書附ヲ得ル為

身分職業

何誰妻

右之者天性温順ニシテ日夜長病ノ

夫ニ事ハ何々ノ貞節ヲ盡シ実ニ可

賞譽者ニ候間此段御届申上候也

住所番地

身分

名印

年月日

○小學入校願

何國何郡何町番地

三十八

第... 條

柳役場ノ文通ノ第

九條中第五項ノ紙

紙ヲ用フヘキ事

第三條 訴訟中其事

ニ關シ証拠ニ為サ

ントスル原被告人

互ノ文通モ第五項

ノ紙ヲ用フヘシ

若シ此紙ヲ用ヒ

サル者ハ裁判上証

何區何村何番地

身分職業何誰何姓

何某

年 齡

右之者此度學齡適當ニ付當學校

ハ入学奉願候尤モ校中規則ノ義ハ

聊違背為致間敷候也

年月日

右 父兄 氏

名 印

○何處何々學校

地タルノ効ナキモ

ノトスヘキ事

第四條 人民ヨリ官

府ニ關涉スル訴訟

ニ付官府ヨリ裁判

官ニ差出ス書面モ

同シク此規則ニ照

シ郵紙ヲ用フヘキ

事

第五條 以上ニ掲ク

學務委員

教員 御中

○學校不參届

一私幾甥何某昨日以來感冒ノ氣味

ニテ太ダ苦痛致居候ニ付本日ヨリ

出校難為致候間此段御届申上候也

住所番地

生徒ノ父兄

年月日

氏 名

行...

百八十九

新撰書式文略

少紙紙ヲ用ヒサル
書面ハ裁判官ニ受
理セス

第六條 裁判所ヨリ

原告人或其引合

人等呼出狀ニ都テ

第五項ノ紙紙用

フヘキ事

第七條 訴訟用紙紙

ハ買求メ差支無之

何學校御中
○退校御願

住所番地
身分何誰何男
何某

右入學ノ上修業罷在候処今般職業

為メ或ハ他へ雇入又ニ遣シ度候

ハ養子女又手藝校入學ニ遣シ度候

年月日

右父兄氏名

何學校

御中

○外國人雇入届

何國何所

族籍

學士(技師) 姓名

年 齡

右者今般何學校相設ケ候ニ付示談
之上右某ヲ一ヶ月ニ金何百圓ヲ以

様各府縣管下適
宜ノ場所ハ賣捌所
相設クベキ事

第八條 賣捌所ノ訴

訟用紙紙賣捌所

ト大書シ官ノ焼印

アル者扱ヲ掲クヘ

キ事

第九條 訴訟用紙紙

用方並種類定價

新撰書式文略

テ奉月何日ヨリ来ル何年何月マテ

之通

第一項

金十圓
雜穀十石

未滿

黃色野紙

定價一枚
金一錢

但シ一枚十六行一行十五字詰以下皆全シ

金十圓以上百圓

未滿

黃綠色野紙

全
金二錢

米五十石以上五十石

雜穀十石以上百石

金百圓以上五百圓

米五十石以上三百五十石

雜穀百石以上五百石

未滿

橙黃色野紙

全
金三錢

金五百圓以上千圓

米三百五十石以上五百石

雜穀五百石以上千石

未滿

綠色野紙

全
金四錢

金千圓
米五百石
雜穀千石

以上

黑色野紙

全
金五錢

第二項

人事ノ類

(但家督相續養子崔人等ノ丁ニ關スル訴訟ヲ云)

第三項

土地並建物ノ類

(但地所境界田畑建家等ノ訴訟ヲ云フ)
青色野紙
定價一枚
金一錢六厘

第四項

雜事ノ類

(但以上三項ニ關セサル一切ノ訴訟ヲ云フ)
紫色野紙
同
金一錢四厘

第五項

文通ノ類

(但裁判所ヨリ原被告人等呼出狀其外刑役場及原被告ノ文通)
紅色野紙
同
金一錢三厘

刑部省
刑部省
刑部省

第十條

第十一條

(右二条ハ裁許用紙紙ニ係ルヲ以テ思ス)

第十二條

訴訟申裁
判所ヨリ原告人
等呼出ニ用アル紙
紙員數ノ定價ハ曲
者ヨリ三日内ニ裁
判廳へ辨納スヘキ

紺色紙 金五厘

都合滿三年間雇入候約條書為取替

仕候間此段御届申上候也

年月日

備主

氏

名印

保証人

名印

前書ノ通ニ付奥印候也

右専村
戸長

氏

名印

事

第十三條

官許賣捌

所ノ外ニテ訴訟用
紙紙ヲ販賣スル者
ハ其品取上テ取買
シタル紙紙代ハ百
倍又ハ其情ヲ知テ
之ヲ買フ者ハ其品
取上テ買受タル罪
紙代ノ五拾倍通判

○轉檀寺替届

私儀從來何郡何村何宗何寺且那寺
ニ有之候処今般信仰ニ因テ何所何
宗何寺へ轉檀致度候ニ付右兩寺へ
及示談候処少シモ故障無之候条此
段御届仕候也

住所番地

年月日

氏

名

○改宗届

河申付事

第十四條 竊取ノ質
造スル者又ハ質
セシ品ト知テ之ヲ
賣買スル者ハ都テ
其品取上ケ九十
以內ノ過料可申付
事

第十五條 前條ニ掲
ル犯則人ヲ見認メ

一私儀從來何町何宗何寺檀家ニ有

之候処遠隔ニテ寺役法用差支ニ或ハ他

又ハ不便利候ニ付今般何町村何宗何

寺ニ轉宗仕度因テ元受場ノ寺院ニ通

知双方致承諾候間此段御届申上候也

年月日

氏名

○葬式改行届

一私儀從來何町何宗何寺檀家ニテ

訴出ル者ハ事實
取乱シ相違ナキニ
於テハ賞トシテ其
過料ノ半高下テ共
ソベキ事

(明治九年五月十八日
布告第七十三号)

各地方ニ於テ訴用
算紙賣切レ之カ為
出訴人出訴期限盡
キントスル時ハ尋常

佛葬修行致来候処今般亡母ノ希
望ニ因リ何郡何町何社神官ニ依頼
シ神葬祭ニ改式仕度依之何寺ニ向
後離檀ノ義通知致置候間此段御届
申上候也

年月日

住所番地 氏名

○瘵疾救助願

何郡何町何番地

新撰書式文格

白紙ニ相認ノ封紙

切レ候旨ヲ添書シ出

許可致此旨布告候事

(明治九年三月十二日司)

法省布達甲第二号

明治八年太政官布告

九十六号公布訴訟用

封紙ヲ刑事ノ告發狀

等ニ相用ト候者有之

哉ニ候処右ハ民事訟

訟ニ限リ候儀ト可相

身分職業

氏名

右之者去何年ヨリ何病ニ罹リ醫藥

針灸手ヲ尽シ候ハ氏終ニ或ハ躰ト

相成營業難相成父母小思ハニシテ

妻ハ其世話病人介抱ニテ何職モ相

成不申且他ニ可助親類無之實ニ愁

然之事ニ奉存候何卒御救助被成下

度此段奉願上候也

心得此旨布達候事

第六章

地所質入書入規則

(明治六年一月十七日)

太政官布達甲第二号

先般田地永代賣買

被差許候ニ付自合賣

入書入致シ候節左

ノ規則ノ通可相心得

事

地所質入書入規則

何區何村

戸長 氏名印

○困突人救助願

何區何村番地

氏名

右之者昨年夏何々病全家ハ傳染

妻子悉ク致死亡營業モ難相成又他

ニ助クハキ者モ無之候間實ニ究迫

第一條 金穀(金) 器在候ニ付御救助被成下度此段奉

地主ヨリ返済スヘ
キ証拠トシテ貸主

願候也

何郡何町

戸長 氏 名印

(金)ニ地所ト變
トラ渡シ貸主其作

徳米ヲ以テ貸高

利息ニ充候ヲ地所

ノ質入ト云フ

○村民救助御願

何郡何村 本年何月 風水ノ災害ニ罹

第二條 金穀ノ借主

(地主)ヨリ返済スヘ

リ一時宛迫器在候内別紙人名之者
必至難渋器在候何卒御救助被成

キ証拠トシテ貸主

下度此段奉願候也

(金)ニ地所ト變

ノ証文ノミヲ渡シ

借主ノ作徳米ノ全

部又ハ一部ヲ貸主

ニ渡シ利息充候

ヲ書入ト云フ

○出火御届

今何日午前何時頃當何町何某宅ヨ

リ出火候処全第何時鎮火仕候依之

別紙手續書相添此段御届仕候也

第三條 金穀借主

(地主)ヨリ返済スヘ

年月日

住野番地 氏

名印

(金主)ニ地所引當

證文ノミヲ渡シ借

主ヨリ其利息トシ

テ米又ハ金ヲ拂ヒ

候ラモ亦書入云

フ

第四條 地所ヲ質入

ニ致シ候節ハ地券

ヲ相渡シ可申其

年期儀ハ三七年

○燒失家建並失家手續

何郡何村何番地

一建家 何軒 住野

内 居宅 何軒 幾棟

右本日午後何時何誰宅ニ階、下屋

ヨリ出火燒失仕候折柄何風吹起リ

火勢甚敷終ニ何誰宅類燒致シ何方

角何番地何誰方ニテ鎮火全ク過ニ

ヲ限ル可シ尤ニケ

年以下期限取極

候儀ハ勝手タルハ

ク且ツ年限取極候

廉ハ判然証大面ニ

記載致シ置可申

事

但書入ノ儀ハ地

券ヲ相渡スニ及

ハス其年限長短

テ怪火ニハ無之候

右之通相違無御座候也

住所番地

年月日

火元 氏

名印

○說教會座御届

一私宅ニ於テ明日午後何時ヨリ同

何時マテ教導職神官住所何某或

何寺某ヲ頼ミ說教會座取設ケ度

允聽衆ヨリ金錢毛頭受領不仕矣聞
此段御届申上候也

住所番地
年月日 氏名

戸長氏名

○遊藝藝音古浚御届

一本日午後何時ヨリ同何時迄
ハ私ニ於テハ何連中或之者相集リ

共本文ノ限ニア
ラスト難モ双方
相對ニテ取極候
年限ハ本文全條
證文面ニ記載致
シ置可申事

第五條 貸入又ハ書
入ノ地所期限ニ至
リ貸主借主相談
上金數ヲ返サシ

小詔明清樂合奏 秘音古浚仕候尤モ
歌舞琴三味線 茶料等申請候儀決テ無之候間此段
御届仕候也

住所番地
年月日 氏名印

○勸進相摸興行御願

本月何日ヨリ公何日マテ晴天十日
ノ間何柵何番地明地面ニ於テ三府
ノ相摸取雇入興行仕度奉存候尤營

テ地所ヲ引渡候節
ハ旧地主ヨリ金並
ハ可引渡音別紙ニ
相認ノ其地ノ長
加判ノ上金並ヨリ
地券相添確認証
ヲ可願出事
第六條 貸入レノ地
所ハ金並ニテ其地
所耕作可致答ニ

付テハ地租諸役
モ総テ金主ニテ可
相勤事

但其段管轄廳
ハ届出證書可差
出事

第七條 書入ノ地所
ハ地主ニテ耕作致
シ候儀ニ付地租諸
役トモ無論地主ヨ

業ノ儀ハ毎日午前六時ヨリ相始メ
午後五時限リ且御規則ノ通税金相
納候間御聞届被成下度奉願候也

住所番地
與行人 氏 名印

○借地興行物願

此度私義何區何村身分何ノ誰所
持地何所別紙繪番面ノ場所地主熟

相違寄 氏 名印

リ可相勤事

但管轄廳届出
ニ不及候事

第八條 管轄違者

或ハ同管轄ト雖モ
懸隔ノ地所ヲ賃ニ
取候節ハ其現地ノ
村町ハ金主ノ名代

人相定置其地租
諸役トモ差支無

議ノ上今所ニ於テ日數何日ノ間借

受小屋取設何々興行仕度打臨時御
用ノ節ハ速ニ取拂可申候右御聞許
ノ上ハ右税金トシテ何日ニ付金何
程上納仕度此段奉願候也

住所番地
年月日 氏 名印

○軍談興行願

様可為相勤事

第九條 貸入又貸出

入證文ニハ必ス其
村町戸長ノ與書証
印ヲ取ル可シ其村
町戸長ノ役場ニハ
與書割印帳ヲ備ヘ
置証文ノ與書割
ヲ願出ル時ハ帳面
ト證文トニ番号ヲ

一今般何區何町何番地ニ於テ求ル

何日ヨリ幾日ノ間軍談興行仕度尤

御布令ノ趣意屹度相守可申候間御

聞届被成下度此段奉願候也

年月日

住所番地

氏

名印

○小屋掛興行願

一私義今般何區何町何番地ハ空地又

朱書シ割印ヲ押シ
與書ヲ為ス可シ若
シ戸長ノ與書並ニ
割印ナキ證文ハ貸
入又ハ書入ノ証文
ニ不相成ニ付右証
文ヲ以テ訴出ルニ
於テハ負債主財産
分散ノ時債主他ノ
債主ニ對シ先取ノ

ニ於テ東西何十間南北何間ノ小屋
掛相宮何月日ヨリ何日迄幾日間カ
芝居足藝カ別紙藝入何騎鑑札所持
持競馬縮渡何紙藝入何騎鑑札所持
之者相雇興行仕度候尤御規則ノ趣
堅ク相守火之元嚴重ニ仕候間御許
容被成下度此段奉願候也

年月日

住所番地

氏

名印

特權ヲ失ヒ獨リ質

入又ハ書入ナキ金

穀借借ノ処分ヲ可

受事

但戶長不在節

ハ其旨ヲ記シ副

戶長與書調印

ス可シ

第十條 一箇所ノ地

ヲ二重三重ニ書入

定席興行御願

一私所有兼テ御願濟定席何郡何町

何番地ニ於テ本月何日ヨリ何月何

日迄日數何十日之間新開雜誌軍談

人形淨瑠璃說教或講釈昔話

祭文或西洋手品興行仕度最モ藝入

ノ儀ハ別紙名前書之通御鑑札所持

之者崔入申候此段奉願候也

住所番地

候儀ハ不相成候得

共若シ第一番金

主ハ引當ニ入レ置

候事ヲ第二番金

主承知ノ上ニテ地

所代金ノ餘カ見

込又其地所引當

ニ借添ハ致シ候儀

ハ不苦尤借主身代

限処分ニ相成候

年月日

氏名印

第六章 訴訟ニ關スル文例

○裁判所門入届書

民事 何郡何町何番地

新訴 御門入

身代 氏名

年月日

○勸解代人ヲ出ス時ノ書式

住所身代

節ハ右地所^ノ糶賣^ノ代金ヲ以テ先ツ^ニ第一番ノ者^ニ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金ヲ以テ第二番ノ者^ニ元利ノ金數ヲ引渡シ第三番以下右ニ準シ引渡可申若シ糶賣ノ金高ヲ以テ先ツ第一

何々勸解之願

原告人氏名印
住所身分
代人氏名印

○何々勸解濟口御届

住所身分
被告人氏名
原告人氏名印

何々勸解濟口御届

御掛リ
何某殿

番ノ金主ハ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘第二番ノ金主ハ引渡スヘキ元利ノ金數ニ不足スル片ハ其不足ノ分ヲ償フ^ト並ニ第三番以下ノ金主ニ償フ^トハ平常引替ナキ償主ニ身代限償却ノ例

御願金高何拾圓

住所身分
被告人氏名

一私共儀何々勸解願上候處御説諭前^ハ又ハ示談之上御願金高之内何十圓受取殘金何十圓ハ用捨致シ一件無申分濟口ニ相成候間原告人被告人連印ヲ以テ此段申上候也

新撰書式不格

年月日

原告人氏名印
被告人氏名印

○何々勸解濟口延期之御願

住所身分
原告人氏名印
被告人氏名印

二隨外物品雜賣
代價ノ内ニテ相當
ノ割賦ヲ以テ引渡
可申事
但第三番ノ金ハ
受取候証文ハハ
地所代價ノ餘カ
ヲ見込借濟儀
ヲ書載可申事
第十一條 地所ハ勿

一私共儀何々勸解奉願候処御説諭
前叙ハ示談之上来ル何日迄日延被成

論地券ノミタリト

モ外國人ハ買賣費
入書入等致シ金字
請取又ハ借受候儀
一切不相成候事

第十二條(本條ハ七年
五十一号布

改正(實入年奉中
天災ニテ地所流亡
等其地ノ全形ヲ失
フニ至ル時ハ地券

下度依テ同日午前第何時ニ出頭仕
濟口書差上候間此段原告人被告人
連印ヲ以テ申上候也

原告人氏名印
被告人氏名印

○何々勸解御下書

住所番地
原告人氏名印

ハ消滅スル理ニ付
 貸主ヨリ借主ニ對
 シ外地所又ハ物品
 ヲ代リ貸ニ差入サ
 セ証文書替ヲ求ム
 ルイヲ得ヘシ若シ
 代リ貸ニ差入ル可
 キ地所物品等之レ
 ナキハハ訴訟ノ末
 身代限リノ処ニ

一私儀何縣下何國何郡何村何番地
 何誰ハ相係リ何々勸解願上候処何
 ヲ不取調ニ付不都合之廣有之依テ
 此度之処ハ一先御願下被成下度此
 段願上候以上

年月日 氏名印

○勸解願不調之節請書式

何号

及フバク又池成野
 地成等ニ變換シ或
 ハ關崩等ノ為メニ
 其地ノ幾分ヲ失フ
 片ハ變換ノ模様及
 殘存ノ大小ニ應シ
 規則ニ基キテ地券
 書替願出ヘキ儀ニ
 付若シ其變換殘
 存ノ地ハ貸金敷

御係リ
 何縣下何國何郡何村身分住何誰ハ
 相係リ何々勸解願上候処示談不行
 届ニ付勸解不調被申渡奉長候依テ
 本日不調書御下渡ニ相成正ニ受取
 申此段御受書差上候以上

年月日 氏名印

○證拠物被告人ヨリ差出シ候

新築書式

四百三

高ノ償ヲ為ス定
ラザルト見込場答
ニ於テハ貸主ヨリ
債主ニ對シ外地所
又ハ物品ヲ増質
差入サセ證文書者
ヲ求ムルコト得ハ
シ若シ増質ニ差入
可キ地所物品等無
之時ハ是亦訴訟ノ

願下ケノ書式

住所身分
原告人氏 名印

一私儀何郡何村何番地身分何誰ハ
相掛ル貸金數ハ勸解奉願候処今般
可適之請取書証發頭致シ候ニ付被
告人連署ヲ以テ該件御下ケ之儀奉
願上候以上
原告人氏 名印

未身代限リノ処カ
ニ及ブヘキ事

但貸主相對示談
ハ格別ノ事

第十三條 貸入ノ地
所年期中天災凶
リ荒蕪ト相成ハ貸
主(金主)ヨリ起返ノ
見込ヲ定メ借主
(地主承諾ノ證書

被告人氏 名印

何郡何組何村何番地身分何誰ヨリ
住所身分何誰ハ相係リ何々勸解被
願上本日出頭可致之御差紙頂戴仕
候処同人儀去ル何月日ヨリ寄出ハ
出持参ニテ何所ニ罷越他行中ニ付
呼戻狀差遣シ置候ニ付何日ニハ歸
宅仕候間右日限午前何時迄日延御

猶豫御願申上候以上

ヲ取り其管轄ハ
可願出尤モ入費ハ
借主ヨリ償フ可キ
事

年月日 住所身名
原告人氏 名印

但借主起返ノ入
費ヲ出スル能ハ
サルキハ証書ヲ
以テ其地所ノ貸
主ニ引渡シ可申
尤モ相對示候ノ

- 訴狀表紙之書式 三百三十五丁ヨリ以下ニ出ツ
- 訴狀之式 全
- 貸金催促之訴狀 全
- 賣掛代金淹滞之訴狀 全
- 買附米引渡違約之訴狀 全

処置ハ格別ノ事

第十四條 當合貸入
又ハ書入ニ致シ置
年期中ノ介ハ總テ
前文規則ニ照準シ
當七月限リ証文相
改メ可申事

第十五條 (六) 年百六十
補増) 是迄貸入書
入ニ致置候介前

- 賣附生糸代金引渡違約之訴狀 全
- 妻離別之訴狀 全
- 經界ヲ爭フ繪圖之式 全
- 原告人三人以上ナルヲ一人ニ任スル訴狀 全
- 被告人連名中脱走又ハ病死人アルノ訴狀 全

約ノ年期据置書
尤証文面等前文規
則ニ觸候處ハ總テ
相改可申事

第十六條 (七年七十六
增) 従前取結ヒタ
ル貸入書入ノ約定
ニテ明治六年七月
三十一日前ニ期限
ヲ過去リタル分ニ

○答書表紙之式全

○對決前熟議解訟之答書全

○對決前返濟延期ノ約定ヲ為
シタル答書全

○對決前他人代償ノ延期ヲ約シ
タル解訟ノ答書全

○對決前他人代償ノ延期ヲ約シ
タル答書全

○外國原告人之訴狀全

○裁判停止御請書式

原告被入身分住所何誰ヘヨリ私ハ
係ル何々之訴當又ハ何年月日御裁
判之趣原告人被告何誰不服ヲ以テ
御定規之通地等職判所ノ上等裁判
所へ控訴可仕旨御届申上候ニ付右
御裁判之執行被停止候旨御達之趣

テ債主ニ於テ貸金
返濟方ニ付延期ノ
勘弁ヲ加フル者ハ
米十月三十一日迄
ニ其地所所管戸
長役場へ届出地所
貸入書入規則第九
條ニ準シ與書割印
ヲ受クヘシ若シ右
日限内與書割印

敬承仕候也

住所身分

被告 氏 名 印

年月日

○控訴御届書式

原告 被告 入 身分 住所 氏名 又ハ何
私ハ係ル 何々之訴 當又ハ何年月日
御裁判ニ相成候処 不服ニ付 御定規
之通 何々地 上 等 裁判所ノ在 上 等 御

ヲ受メシテ 後 目 其
証書ヲ以テ 訴訟ニ
及リ 時ハ 質入書入
ノ 証 拠ニハ 相立サ
ルニ付 裁判上 贖買
分配ノ時ハ 先取ノ
權利ヲ失ヒ 質入書
入ナキ 質借同様ノ
処分ニ及ブキ事
明治七年五月二日 内務
省 達 乙 第 三 三 三 号

裁判ハ控訴可仕候此段御届申上候也

住所身分

原告 氏 名 印

○身代限揭示書受取之書式

原告人 氏名 何 柵 氏名 係リ 何々之
儀 訴上 候 処 濟方 難行 届示 談身代限
ニ取極ルニ付 本日 御揭示書 御下ケ
渡ニ相成 依テ 本日ヨリ 何 誰表 張

本年第六号公布地所
質入書入規則第廿条
改正文中 戸長ノ 與書
証印ハ 戸長又ハ 副戸
長 実印ヲ 為 押割印
ハ 戸長 役場ヲ 相用
候 義ト 可 心得 此 旨
相 違 候 事
但 役 場 印 無 之 候
ハ 彫 刻 申 付 者 出

竹葉書式各

四七

新撰書式文様

来迎ハ夕長実印ヲ
換用可致事

第八章 土地賣
買譲渡規則

買譲渡規則

(明治十三年十一月廿四
布告第五十二号)

土地賣買譲渡規則

則別紙ノ通相定候条

此旨布告候事

但明治八年六月布

告其同年十月第

置来ル何年月日返納可仕候依テ御

請書如件

年月日 夕長 氏 名 印

○身代限財産糶賣及札拂揭示
書受取書式

住所身系

氏 名

右之者所物糶賣及札拂之御揭示書

御下ケ渡ニ相成正ニ奉受取候也

百五十三号布告廢

止候事

土地賣買譲渡

規則

第一條 凡ソ所有ノ

土地ヲ賣渡シ又ハ

譲渡サント欲スル

者ハ賣渡譲渡

證文ニ地券ヲ添ヘ

其地ノ戸長役場ニ

年月日 夕長 氏 名 印

○差上申御請書之式

一何縣下何國何郡何町村番地身今

何誰ハ相係リ何々勸解御願申上候

処明何日午前何時ニ出頭可致旨被

仰渡奉畏候依テ御請書奉差上候

以上

年月日

原告人 氏 名 印

新撰書式文様

四頁

差出シ與書割印
ヲ受テ之ヲ買受人
又ハ讓受人ハ附與
スベシ
但一筆ノ土地ヲ
分割シテ與書
割印ヲ受ケント
欲スル者ハ其
界及坪數等ヲ
詳記シタル番面

第七章 諸心得之部

○相續人之事

父兄伯叔總テ目上ノ者子弟甥等ノ
目下ノ家ヲ繼承スルキハ相續人ト
稱シ養子ト稱スベカラズ(相續人ト
主死后五十日ヲ
出ヅヤカラス
○合家之事
本家分家親戚等ノ内當主病死イタ

ヲ添ヘテ差出ス

第二條 戶長役場

於テハ豫メ土地賣
買讓渡與書割
印帳ヲ備置キ與
書割印ヲ請フモ
ソアレハ地所賣
書入與書割印帳
ヲ見合セ登記ナキ

シ跡子弟幼年並ニ婦女子等ノ初死
者ノ遺言又ハ父母先ニ重立候親戚
及ビ遺妻子女熱談ノ上合家願出候ハ
聞届ニ相成ルバシ

○離縁之事

夫婦ノ際已ムヲ得ザルノ事故アリ
テ其婦離縁ヲ請フト虽氏夫之ヲ許
諾セズ之ガ為メ數年ノ久キヲ經テ

ニ於テハ(賣渡讓
渡)證文ニ與書

割印ヲナスヘシ

第三條 買受人又ハ
讓受人(賣渡讓

渡)証文ヲ領收スル
ハ地券(書換書

書)願書ニ双方連
印ノ上地券ヲ添ヘ

戸長役場ヲ経テ

終ニ嫁期ヲ失ヒ人民自由ノ推理ヲ

ヲ妨害スルモノ少ナカラス因テ自

今如此事柄アレバ婦ノ父兄弟或ハ

親戚ノ内附添直ニ裁判所へ訴出苦

シカラス

夫家ヲ出デ二年ヲ待チ行衛知レサ
ル者ハ其妻ノ父兄弟或ハ親戚ノ内
附添直ニ離婚ヲ訴フルヲ得ベシ

管轄廳へ差出ス

第四條 第一條手

續ヲ以テ其土地所

有權ヲ移轉スルイ

ラ得ト雖モ地租免

地方税ハ地券ニ記

載セル姓名ノ者ヨ

リ之ヲ徵收スヘシ
但地券紛失ノ際

離別聞届可然事

○戸籍同戸列次ノ順

○戸主 ○高祖父母 ○曾祖父母 ○祖

父母 ○父母 ○妻 ○子 ○婦孫 ○曾孫
玄孫 ○兄 ○弟 ○姉 ○妹 ○大伯叔父

人ノ妻犯テ其他犯罪ニ因テ懲役ニ

処セラレ夫其妻ノ惡ヲ嫌ヒ刑限内

ト虽モ夫並ニ妻ノ父兄弟等熟談ノ上

下附願出ルモ亦
地券ニ記載セル
姓名ノ者タルハ

第五條 死亡者失踪
者ノ家督相続若
クハ遺產相続及
ヒ離縁戶主ノ家
督相続ニ由リ土地
ヲ讓受ケル者ハ

親族ナキモノハ近
隣ノ戶主ト連印ノ
上戸長役場ヲ經テ
地券(書換)東書
願書ヲ管轄廳ニ
差出スハシ若シ家
督相続又ハ遺產
相続ノ日ヨリ六箇
月以内ニ戸長役場
迄之ヲ差出サレ

母○伯叔父母○甥○姪○從弟○從

弟○又從弟○兄弟ノ妻○姊妹ノ

夫○大伯父ノ妻○大伯母ノ夫○伯

叔父ノ妻○伯叔母夫從弟以下

○五等親

一等親 父母○養父母○夫○子○

養子

二等親 祖父母○嫡母○繼母○伯

三等親

叔○父姑○兄弟○姉○妹

○夫ノ父母○妻○姪○孫

子ノ婦 曾祖父母○伯叔ノ婦○夫

ノ姪○從父兄弟姉妹○異
父兄弟姉妹○孫○外孫○
女婿

○弟子奉公人年限ノ事

者ハ證印稅五倍ノ

料料ニ処ス

但本條期限内ニ

地券書換裏書

願書ヲ差出ス能

ハサル事由アリ

テ之ヲ届出ル者

ハ此限ニ在ラス

第九章 土地分

農工商ノ諸業習熟ノ為ノ弟子奉公

ニ至リ候ハ勝手ニ候得共年限ハ滿

七年ニスグベカラズ

但シ双方相對示談ヲ以テ延期苦

シカラズ

シカラズ

○請願規則

(太政官布告第五十八号)
明治十五年十二月十二日

請願規則左ノ通制定ス

分割取扱手續

第一條 賣買讓渡

等ノ為ニ一筆ノ土

地ヲ分割シテ與書

割印ヲ受ケ地券書

換ヲ請ハント欲ス

ルモノハ境界ヲ明

瞭ニシテ其及別ヲ

正シ地位ノ優劣

ニヨリ金筆ノ地價

第一條 人民各自ノ利害ニ關シ行

政上ノ処分ヲ請願セントスル者

ハ左ノ條規ニ依ルヘシ

第二條 郡區長及戶長職務内ノ事

件ハ郡區長戶長ニ請願スヘシ郡

區長戶長ノ指令ニ服セザル者ハ

府知事縣令ニ請願シ府知事縣令

ノ指令ニ服セザル者ハ主務卿ニ

ヲ分配シ其書面ヲ
戶長役場ニ差出ス
ハシ

第三條 戶長ハ實地

ヲ檢シ不都合ナキ
時ハ與書割印ヲ
ナシ若シ及別當
價配分上不適當
ノモノアリト認ル
場合ニ於テハ其旨

請願シ主務卿ノ指令ニ服セザル

者ハ太政官ニ請願スルコトヲ得

府知事縣令警視總監職務内ノ

事件ハ府知事縣令警視總監

ニ請願スヘシ府知事縣令警視

總監ノ指令ニ服セザル者ハ主務

卿ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服セ

ザル者ハ太政官ニ請願スルコト

ヲ説諭シ願人承服

セサル時ハ其意

見ヲ付シ郡區役所

ヲ經テ管轄廳ニ

具申スヘシ

第三條 該廳ニ於テ

前條ノ具申ヲ受

ル時ハ更ニ實地

審査シ分界ヲ檢シ

坪數地位ニ適スル

ヲ得

各省卿職務内ノ事件ハ其卿ニ請

願スベシ其指令ニ服セザル者ハ

太政官ニ請願スルコトヲ得

第三條 凡ソ請願スル者ハ書面ヲ

以テスベシ口陳スルコトヲ許サ

ス官署ノ求メニ應シテ開陳スル

ハ此限ニ在ラス

地價ヲ定メ其家
人ニ申達シ與書
割印ヲ受クルノ手
続ヲナサシムヘシ
但賣買讓渡
ニテラヌシシ自
己ノ都合ヨリ
一筆ノ土地ヲ
割スルモ前條々
ノ例ニヨルヘシ

第四條 請願書ハ請願人自ラ署名
捺印シ族籍住所ヲ記シ戸長ニ請
願スル者ヲ除ク外住所戸長ノ與
印ヲ受クベシ
其連名ヲ以テ請願スル者ハ各人
自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ
其総代又ハ請願發起人アルトキ
ハ其由ヲ肩書スヘシ戸長ノ與書

第十章 利息

制限法

(明治十年九月十日)
布告第六十六号

利息制限法左ノ通相

定候条此皆布告條事

第一條 凡ソ金銀貸

借上ノ利息ヲ分テ
契約上ノ利息法
律上ノ利息トス

ヲ受クルハ前ノ例ニ同シ

第五條 府縣郡區總代又ハ結社總

代ノ名ヲ以テ請願スルコトヲ得

ス

但成法ニ制定セラレタル會社

ハ此限ニ在ラズ

第六條 請願書ヲ上呈スルニ代人

ヲ以テスルコトヲ許サス數人連

第二條 契約上ノ利息

息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定得ル所ノ利息ニシテ元金百圓以下ハ一年ニ付百分ノ二十(三割)百圓以上千圓以下百分ノ十五(二割五分)千圓以上百分ノ十二

第七條 請願書ハ郵便ヲ以テ上呈スルコトヲ得

名スル者ハ請願人中ニ於テ三名以下ノ總代人ヲ撰ヒ之ヲ委託ス

第八條 上司ニ呈スル請願書ニハ其経歴スル所ノ官署ノ指令書ヲ添フハシ

ハシ

第九條 請願書ノ郵達ヲ得タル各

省若シ其主務ニ非ザルトキハ直チニ之ヲ主務省ニ移シ其由ヲ請願人ニ通知スハシ

(二割二分)以下トス若シ此限ヲ超過スルハ裁判上無効ノモノトシ各其制限ニマテ直シムハシ

第三條 法律上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ利息ノ高ヲ定メサル片裁

第十條 太政官ニ於テ請願ヲ裁可スルトキハ主務省ニ付シテ処分セシムハシ

第十一條 太政官ノ裁令ヲ経タル

判所ヨリ言渡所

ノ者ニシテ元金ノ
多少ニ拘ラス百ハ
ノ六(六分)トス

第四條 第三條ニ依

リ定限利息ノ外總

テ人民相互ノ契約

ヲ以テ礼金轉利等

ノ名目ヲ用ル者ア

ル比總テ裁判上無

者ハ更ニ請願スルコトヲ得ス又

裁判所ニ訴フルコトヲ得ス

第十二條 請願ヲ名トシテ行政処

分ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 凡ソ事ノ建白ニ屬スヘ

キ者ハ人民各自ノ利害ニ係ルヲ

以テ請願スト雖モ受理セス

第十四條 行政処分ノ既ニ五年ヲ

効ノ者トス

第五條 返還期限ヲ

違フルキハ負債

ヨリ債主ニ對シテ

キノ償金罰金違

約金料料等ニ當

スヘキコトヲ約定ス

ルコトアルハ概シテ

損害ノ補償ト看做

シ裁判官ニ於テ該

經タル者ハ請願ヲ受理セズ

第十五條 請願人第二條ノ順序ヲ

經ス及第三條第四條第五條第六

條第八條第十一條ノ規程ニ循ハ

サル者ハ受理セズ

第十六條 請願書ニ侮辱誹毀ノ語

ヲ用ヒ及第二條ニ示ス所ノ官署

ノ外ニ向ヒ請願スル者ハ受理セ

債主ノ筆算受テ

タル損害ノ補償ニ

不當ナリト思量ス

ルキハ之レニ相当

ノ減少ヲ為スイラ

得

第十一章 証券

印紙規則

(明治七年七月九日
布告第八十二号)

ス

第十七條

條規ニ違ヒ受理セラレ

サルノ請願ヲ以テ強テ受理ヲ乞

フ者ハ十一日以上一年以下ノ輕

禁錮ニ処ス其連名請願スル者ハ

情ヲ知ラサル者ヲ除ク外各人均

ク罪ヲ論ス其發起人ハ一月以上

二年以下ノ輕禁錮ニ処ス若シ請

願人ノ外教唆者アルトキハ發起

人ト同ク罪ヲ論ス其嘯聚ニ渉ル

者ハ刑法ニ依テ処分ス

第十八條 請願人官吏ニ對シ抗論

シ喧擾ニ渉ル者ハ十一日以上一

年以下ノ輕禁錮ニ処ス

其侮辱ニ渉ル者ハ刑法ニ依テ処

新撰書式文略

日ヨリ施行候義

ル明治八年二月一

日ヨリ施行候條此

旨布告候事

但帳簿罰則ノ未

明治六年三月(第五

十六号以下追々及布

告候証券印紙規則總

テ相廢シ更ニ別冊ニ

通相定メ本年九月一

日ヨリ施行候條此

旨布告候事

但帳簿罰則ノ未

ル明治八年二月一

日ヨリ施行候義

ト可相心得事

別冊

証券印税規則

第一則 綱領

第一條 凡ソ人民財

産ノ受授並ニ交際

上相用候証券書帳

簿類ハ都テ此規則

ノ通証券。印紙

。界紙ヲ相用ス

第十九條 請願書ハ新聞紙其他ノ

文書ヲ以テ公行スルコトヲ許サ

ス犯ス者ハ罪前條第一項ニ同シ

第二十條 請願ニ由リ人ヲ誣告ス

ル者ハ刑法ニ依テ処分ス

右奉教旨布告候事

○富籤賣買牙保及購買者

処分方

キ事

第三條 總規則

通証券。印紙。界

紙ヲ用ヒサル者ハ

後日如何休ノ故障

差起出訴ニ及ビ候

共其書類ハ一切取

揚テ裁判不相成候

事

第三條 証券。印

(太政官布告第廿五号)

明治十五年五月廿四日

布告ニ原ツ

キ富籤賣買ノ牙保幫助ヲ為シ及富

籤ヲ購買シタル者処分方左ノ通判

定ス

第一條 凡富籤賣買ノ牙保若クハ

幫助ヲ為シタル者ハ一月以上六

月以下ノ重禁錮ニ処シ五円以上

新撰書式文格

紙。界紙。八買求

差支無之様各府

縣管下適宜ノ場

所ノ買捌所相設

置候条下條ニ掲

載セル定價ヲ以

テ買取ルキ事

第四条 賣捌所ハ

証券印紙賣捌

所ト大書シ官ノ

五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 凡富籤ヲ購買シタル者ハ

其價ヒテ拂ヒタルト未ダ拂ハガ

ルトヲ問ハス二十日以上四月以

下ノ重禁錮ニ処シ四圓以上四十

圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名

ヲ借リテ購買シタル者及他人ヨ

リ譲リ受ケタル者亦同シ

燒印アル番板ノ掲ケル家ニ限ルヘシ其外ニ於テハ一切賣買禁止ノ事

第五條 印紙ノ種類定價左ノ通候事

淡黑色印紙 定價一錢

薄赭色全 全 五錢

青色全 全 十錢

黄色全 全 二十五錢

橙黄色全 全 五十錢

紅色全 全 壹圓

深紫色全 全 五圓

深紅色全 全 二十四

第六條 證券界紙ノ定價左ノ通候事

大判界紙	定價七厘
中判全	全 五厘
小判全	全 三厘

右ノ界紙ハ大中小判ノ三種アリト雖モ其證券ノ文義長短ニ因リ便宜ニ任セ何種ヲ相用ナルモ適宜タルヘキ事

第二則 諸証書

第一條 諸証書ヲ分テ三類トス

○第一類 諸証券

一 賣品並職業ニ管スル金銀受取書

右ノ受取書ハ金高十圓以上總テ一錢ノ印税十圓未満ハ印紙

界紙ヲ用アルニ及ハス

一 預金 ○ 證券 ○ 手形

一 耕地小作 證文

一 遺金 證文

右ノ證券類ハ金高十圓以上六總テ一錢ノ印税十圓未満ハ

界紙ヲ用フヘシ

一 貨物 ○ 預り書 ○ 小札

右ノ証書ハ金高十圓以上一錢ノ印税十圓未満ハ印紙界

紙ヲ用ルニ及バズ

一 諸會社株手形

一 荷物送り狀

一 荷物預り證書

一 (○) 地所(○) 建家(○) 讓與證書

一 物品讓與證書

一 公債證書類讓與證書

一 跡式讓狀

右ノ證書類ハ金高ニ拘ラス總テ一錢ノ印稅

○明治八年百二十六号布告ヲ以テ左ノ通追加ス

一 預り米(○) 証文(○) 手形

一 預り雜穀(○) 証文(○) 手形

右證書ハ(米高五石雜石高十石)以上ハ總テ一錢ノ印稅(米高五石雜石高十石)未満ハ界紙ヲ用ユハシ

○兼ニ類諸證書

一 借用金証文

一 預り金(○) 証文(○) 手形但使用ヲ為サルノ明文無之カ

一 地所並建家賣渡証文

一 地所並建家(○) 質入(○) 書入(○) 証文

一 公債證書類賣買証文

○明治七年百三十六号布告ヲ以テ左ノ通追加ス
一 諸品賣任切書

○明治十二年三十二号布告ヲ以テ左ノ但書追加ス
但シ買仕切トハ荷主ヨリ輸送シ又ハ輸送セントスル物品ノ間
屋仲買又ハ其他ニ於テ仕切リ其價等ヲ荷主ノ証明報告ス
ル書類ヲ云ヒ賣任切トハ荷主ヨリ他ニ物品又ハ輸送スル
ニ方テ其物賣却ノ價額ヲ荷受主ニ向テ証明報告スル
書類ヲ云フ

右ノ仕切書ハ
書面金高十円未満ハ 界紙ニ及ハス

同断金高十円以上二十円未満ハ	印税	一錢
同断金高二十円以上三十円未満ハ	同	二錢
同断金高三十円以上四十円未満ハ	同	三錢
同断金高四十円以上五十円未満ハ	同	四錢

右以上幾許ノ高ニ至ルモ總テ之ニ準ジ印税増加致スヘシ

- 一 荷為替手形
- 一 諸請負証文
- 一 金錢約定証文
- 一 金錢約定為取換証文
- 一 米穀並諸品賣買約定証文

一 米借用証文
 一 雜穀借用証文
 一 賣買用諸品 (代價拾圓以上借用証文)
 一 借地証文
 一 借家証文
 一 金十圓以上記載產人請狀
 一 諸賣買証文 金預り手形
 一 諸數金証文
 ○明治八年百二十六号布告ヲ以テ左ノ通り追加ス
 一 預り米 (証文○手形) 但使用ヲ為サル明文無之分

一 預り雜穀 (証文○手形) 但使用ヲ為サル明文無之分
 右ノ証書類ハ

書面 金高十圓未満ハ
 雜穀高十石未満ハ
 界紙ヲ用フヘシ

同断 金高十圓以上二十圓未満ハ
 米高五石以上十石未満ハ
 雜穀高十石以上二十石未満ハ
 印税一錢

同断 金高二十圓以上三十圓未満ハ
 米高十石以上十五石未満ハ
 雜穀高二十石以上三十石未満ハ
 金二錢

同断 金高三十圓以上四十圓未満ハ
 米高十五石以上二十石未満ハ
 雜穀高三十石以上四十石未満ハ
 金三錢

新撰書式文格

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加イタスヘシ

○第三類諸証書

一 諸酒切手

右ノ切手ハ

升目一升未満ハ

界紙ニ及ハス

同一升以上一斗未満ハ

印稅壹錢

同一斗以上二斗未満ハ

全 二錢

同一斗以上三斗未満ハ

全 三錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加イタス可シ

○明治七年百三十六号布告ヲ以テ左ノ通り追加ス

一 為換手形

一 荷為換手形

右ノ手形ハ

書面金高五十円未満ハ

界紙ニ及ハス

同断金高五十円以上百円未満ハ

印稅一錢

同断金高百円以上百五十円未満ハ

全 二錢

同断金高百五十円以上二百円未満ハ

全 三錢

同断金高二百円以上二百五十円未満ハ

全 四錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

一 食類切手

新撰書式文格

四百廿四

右ノ切手ハ

代金高二十五銭未満ハ 界紙ニ及ハス

同二十五銭以上二四五十銭未満ハ 印税一銭

同二四五十銭以上五四未満ハ 全 二銭

同五四以上十四未満ハ 全 三銭

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印税増加致スヘシ

一米油醬油其外諸品買切手

右ノ切手ハ

代金高二十五銭未満ハ 界紙ニ及ハス

同二十五銭以上五四未満ハ 印税一銭

同五四以上十四未満ハ 同 二銭

同十四以上二十四未満ハ 同 三銭

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印税増加致スヘシ

一荷物請取書

右ノ受取証ハ送狀附添ハサルカハ界紙ニ及ハス送狀附添ノ

分ノ界紙ヲ用フルカ又ハ印紙貼用ノ荷物判取帳ニ記スヘシ

一金高記載無之ハ約定証書。雇人請狀類

右ノ証書類ハ總テ界紙ヲ用フヘシ

○明治十二年三十一号布告ヲ以テ左ノ二項追加ス

一銀行當座預リ金小切手

新撰書式文格

右ノ小切手ハ金高ニ係ハラズ總テ壹錢ノ印紙ヲ徴收シ大
藏省ニ於テ稅印ヲ押捺スルモノトス

第二條 証書ハ總テ

証書渡主ニテ印

紙貼用ノ上必ズ實

印ヲ以テ其印紙

ノ全面滅却セシ

様第一号圖ノ通

調印致スル事

第三條 院省使府

第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯

シタル者ハ同條ニ定メタル刑期

金額ノ二倍ニ処ス但初犯ニ科シ

タル刑期金額ニ下ルコトヲ得ス

第四條 富籤ニ關スル犯罪ヲ告發

シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ

縣ノ官印或ハ諸

官吏ノ公務ニ依

リ調印セル受取

書証書類ハ印

紙界紙ヲ用フルニ

及ハサル事

第四條 租稅並賦

金及ヒ區入費取

立ノ節區長ヨ

リ相渡受取書

半額ヲ給與ス

第五條 富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事

未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首

シタル者ハ其罪ヲ免ス

第六條 富籤ニ關スル犯罪ニ因テ

得タル財物ハ之ヲ沒收ス

自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖

モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル

新撰書式文格

新撰書式文様

ハ界紙ヲモ用ソル
ニ及ハサル事

第五條 官祿家

祿賞典救助受
取書又ハ裁判
請書及ヒ訴訟
濟口証文等部
テ印紙界紙ヲ用
フルニ及ハサル事

第三則 諸帳簿

右奉勅旨布告候事

遺失物取扱之心得

第一條 凡ソ遺失物 稱スルハ

自ラ其遺失スルニ心付カズ故ニ
其所在ノ何処ナルヤヲ覺知セザ
ルヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルニ
臨テ物主其場所ニ就テ其所持

第一條 諸帳簿類分テ三類トス

○第一類 諸帳簿

- 一 金錢判取帳
- 一 貨物通帳
- 一 金錢當坐預リ通帳

右ノ帳簿類ハ

- 附込見積金高百圓未満ハ 印紙貼用ニ及公
- 同断金高百圓以上二百圓未満ハ 印紙 一錢
- 同断金高二百圓以上三百圓未満ハ 全 二錢
- 同断金高三百圓以上四百圓未満ハ 全 三錢

新撰書式文様

四百廿七

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

○第二類諸帳簿

一貨物量量帳

一金錢一時(○貸○借)通帳

一諸品損料帳

一商賣品當坐(○貸○借)通帳

一金錢預リ通帳但使用ヲ為サルノ明文無之分

右ノ帳簿類ハ

附込見積金高百圓未満ハ

印紙貼用ニ及ハス

同断金高百圓以上三百圓未満ハ

印稅 五錢

同断金高三百圓以上三百圓未満ハ 全 拾錢

同断金高三百圓以上四百圓未満ハ 全 拾五錢

右以下幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

○第三類諸帳簿

一荷物判取帳

一諸品判取帳

右ノ帳簿ハ附込ノ箇數ニ拘ラヌ一ヶ年ニ付印稅貳拾錢

第三條 (第一類)

第三類帳簿ハ

印紙貼用ノ儀ハ

ノ主タルヲ證明ニスル中ハ速ニ
之ヲ返シ還シテ遺失物ヲ以テ

同断金高百圓以上三百圓未満ハ

印稅 五錢

一ヶ年以上附込ハ
キ見積金高ヲ以
第三号書式ノ通
帳簿初丁ハ自
身相記シ其金
高ニ應シタル印紙
貼用ノ上必ス官印
ヲ以調印致スヘキ
事

但帳簿初丁ハ

彼此ノ論ヲ為スコト得ズ

第二條 凡ソ遺失物ヲ得レバ五
日內ニ其主ニ返スベシ若シ其主
分明ナラザレバ之ヲ官ニ差出ス
ベシ官ニテハ之ヲ榜示シテ一年內
ニ其主ナキニ於テハ之ヲ得者ニ給
スルナリ

第三條 凡ソ遺失者ハ其遺失シ

記シタル附込見
積金高相満候
ハ何ヶ年相用
候トモ若シカラ
サル事

第三條 第三類ノ

帳簿（印紙貼用
ノ儀ハ其帳簿可
相用年限ヲ見積
リ第四号書式之

タル物品ノ負數模樣並ニ日時
又心覺ヘノアル場所等細密ニ記
載シ速ニ官ニ届ケ出ズベシ

但シ得者ヨリ返シ与ヘテ得ル
片モ亦更ニ其旨ヲ届出ベキナリ

第四條 凡ソ遺失ノ物ヲ得ル片ハ
之ヲ其所持ノ主ニ返スト由其費
用ヲ償ハシムル事ヲ得ル也且ツ

通帳簿ノ初丁へ
自身ニ相記シ其
年限ニ應シテ印
紙貼用ノ上必ス實
印ヲ以テ調印致入へ
キ事
但帳簿ノ初丁
ハ記シタル年限
相満候迄何箇
數附込候トモ苦
事

得者ニ報勞ノ為メ其物價ノ百分
ノ五ヨリ以上百分ノ二十迄ノ金
同ヲ給与スベシ若其物主ト得者
ト其價ノ當分ヲ爭フルハ官ニテ
之ヲ評價人ニ托シテ其當分ノ價
ヲ定ム
第五條 凡ソ遺失物ヲ得ルニ盜賊
ニ係ルモノハ直ニ官廳ニ訴へ出

シカラサル事
第四條 一旦印紙貼
用ノ○第一類○第
二類帳簿附込見
積金高相満候狀
又ハ第三類帳簿
年限相満餘白紙
數有リテ再用セシ
ト欲スル者其帳
簿ニ應シテ第三

ツバシ官ニテ之ヲ其所持主ニ返
シテ得者ニハ則チ其費用ヲ償ハ
シムベシ
第六條 凡ソ官私ノ地内ニ於テ
埋藏アリシ物ヲ掘出シタル者ハ
其事伴ヲ官ニ送り地主ト中分ス
ルヲ法トス但シ其主ノ分明ニ知
レタル者及ヒ盜賊ニ係ルモノハ

新撰法律式大略

号。第四号(書式)

通改(書記)印

紙貼用致スヘキ事

第五條 第二類、証

書ヲ若シ便利ヲ為

帳簿ニ相續リ書

載候儀不替候得

共其帳簿ハ其附

込ノ歳毎ニ第ニ

則第一條ノ通印紙

此分ニアラザルナリト可心得

第七條ニ 凡ソ遺失ノ物ヲ得ルニ

若シ其物久シク保チ難クシテ其

主分明ナラザル片ハ速ニ官ニ之

ヲ送ルベシ官ニテ之ヲ公費シ其

代價ノ金ヲ領置シ榜示シテ之

ヲ処分スルノ前ノ第二條ノ如シ

第八條ニ 凡ソ家畜ノ他所ニ逸走ス

貼用致スヘキ事

第六條 印紙貼用ノ

諸帳簿ハ其掛リ

官負巡而調査ヲ

遂ケ候儀モ可有之

尤其部ハ巡回日限

前以可相違候条

印紙貼用ノ帳簿

ハ無遺漏調査

ヲ受クヘキ事

ルモノハ之ヲ遺失物ト称スルヲ

得ズト雖モ其主ニ於テハ之ヲ官

ニ報シ又得者ニ其費用及ビ報勞

金ト謝典スルノ第三第四條ニ同

シ若シ他人ノ財産ヲ毀損スル時

ハ律ニ照準シテ処分スベシ

第九條ニ 凡ソ逸走スル畜類ヲ得

タル者ハ其主不明ナラサルモノ

第七條 (第一類)

第二類 附見積

金高相満候款又

ハ第三類帳簿ノ

期限相満候即其

帳末ニ其号書其

ノ通與書ノ上調

印致置前条官

買廻田ノ印差出

検印ヲ受クヘキ事

ハ之ヲ官ニ差出スベシ若シ八日ノ

限リニ其主知レザレバ官ニテ之

ヲ公賣シテ得者ニ其費用ヲ償

ヒ仍ホ代金ノ餘分アレハ之ヲ官

ニ領置シ榜示シテ之ヲ処分スル

第二條ノ如シ

第十條ニ

凡ソ遺失物及ヒ逸走ス

ル畜類ノ官ニ係リタルモノハ官ヨ

第四則 賞罰

第一條 証券界紙

相用ヘキ證書類

ニ証券界紙ヲ用

ヒサル者ハ脱税高

(界紙定價三種

平均五厘)ニ拾倍

(則拾錢)其証書

ノ受取書ノ受取

タル者ハ脱税高

リ其費用ト報勞金ヲ其得者ニ給

スルノ私物ニ同シ

第十一條ニ

凡ソ警察官吏タル者ハ

所部ノ内外ヲ問ハス遺失物ヲ得

レハ速ニ之ヲ官ニ送り全ク其主ニ

返シ其主ナケレハ之ヲ官ニ納ムル

ナリ

第十三條ニ

凡ソ一切應禁ノ物ヲ得

拾倍(則拾錢)ノ拾倍タルヘキ事

第二條(第一類)

第三類(第三類)

証券印紙ヲ貼用セサル者ハ脱税

高ノ二拾倍其証

書ヲ受取タル者

ハ脱税高ノ拾倍

過料タルヘキ事

レバ遺失及ヒ埋藏ヲ論セズ皆之ヲ官ニ没スルナリ

第十三條ニ 凡ソ公私債証書地券

諸鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論

スルヲ得ズト出ル其主ハ得者ニ其

費用ヲ償フベシ

第十四條ニ 凡ソ遺失物及ヒ逸走セ

シ畜類ヲ得若クハ埋藏物ヲ掘得

第三條(第一類)

第三類ノ諸帳簿

ハ証券印紙ヲ貼用

セサル者ハ脱税高

ノ貳拾倍過料タルヘキ事

第四條(第一類)

二類(証券印紙貼

用ノ帳簿見積金

高附込相済餘白

テ官私ニ全ク送り返サズ又ハ其

主タル一分明ナルニ強テ之ヲカヘ

サル者ハ並ニ律ニ照シテ処分アルベ

キナリ

○地所名称區分

第一類 官有地

皇宮地 皇居 離宮 總テ民有ニアラ

ザル神地等

ノ紙數之レアルト
テ第三則第四則
犯シ更ニ證券印
紙ヲ貼用セス猶附
込候者ハ脱税高
ノ拾倍過料タルハ
キ事

第五條 第三類ノ諸

帳簿ハ証券印紙
貼用セサル者ハ脱

右ハ地券ヲ發セズ地租ヲ課セズ區
入費ヲ賦セズ

第三類 皇族賜印官用地

右ハ地券ヲ發シ地租ヲ課ス又區
費ヲ賦セズ

第三類 山岳丘陵林藪原野海河湖

沼池澤溝派道路田畑屋敷等鉄道
線敷地電信架線柱敷地燈明臺敷

税高(釐)ハ無印
紙ニ一ケ年未滿相
用アル者ハ則ニ拾
錢ノ脱税ニテ年未
滿相用アル者ハ則
四拾錢ノ脱税ニテ
ル類ナリ以上之ニ
準シ一ケ年以内貳
拾錢ツノ割合ヲ
モツテ之レヲ算ス

地名區田跡公園地人民所有ノ權
利ヲ失ヒシ地

民有地ニアラザル堂宇敷地及ヒ
墳墓行刑場及ヒ掲示場等ノ敷地
右ハ地券ヲ發セズ地租ヲ課セズ區
入費ヲ賦セズ

但シ人民ノ願ニヨリ右地所ヲ貸
渡ス片ハ其間借地料及ヒ區入費

ノ六倍過料タルハ

キ事

ヲ賦セズ

第四種 寺院大中小学校説教場

院貧院

右ハ地券ヲ發セズ地租ヲ課セズ區

入費ヲ賦セズ

第五類 民有地

人民各自所有ノ耕地宅地山林社

寺等

第六條 第三類契

印紙貼用ノ帳簿

期限相満餘白ノ

紙數之レアルトテ

第三則第四条ヲ犯

シ更ニ證券印紙ヲ

貼用セズ猶附之條

者ハ脱税高價

書同断ノ四倍過料

タルハキ事

第七條 諸證書帳

簿ニ証券印紙ヲ

不足ニ貼用セシモ

ノハ其減税高ノ

拾倍其証書受取

タル者ハ減税高

五倍ノ過料タルハ

キ事

右ハ地券ヲ發シ地租ヲ課シ區入費

ヲ賦ス

但シ潰地開墾等ノ如キ大ニ其ノ

土地ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ得

テ免租ヲ得

第六類 人民教人又ハ一村所有ノ

学校病院郷倉牧場林場社寺等

右ハ地券ヲ發シ地租ヲ課シ區入費

第八條 規則

貼用セシ諸証書帳簿ノ証券印紙ニ調印セサル者ハ三十四以下ノ過料タルヘキ事
但其調印セサル証書ヲ受取タル者ハ渡主ニ科スル半高ノ料料定ス

第七類

官所有地ニアラザル墳墓右ハ地券ヲ發シ地租ヲ課シ區入費ヲ賦セザルヲ法トス

○為替手形約束手形條例

(明治十五年十二月十日) 第五十七号布告

為替手形約束手形條例別冊ノ通制

第九條 証券印紙

貼用セサル紙又ハ印紙不足ナル紙或ハ貼用ノ印紙ニ調印セサル紙又ハ界紙可相用諸証書ニテ界紙ヲ用ヒサル証書ハ証人ニ相立又ハ與書等致

右奉教旨布告候事

第一章 為替手形

第一節 為替手形ノ性質及法式

第一條 為替手形ハ振出人ヨリ支拂

人ニ當テ記載ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ拂渡サシムル證券ヲ謂フ

新撰書式文庫 第四十六 五十四

シ候者ハ貳十五兩
以下ノ過料名ル
キ事

第十條 官許賣捌

所ノ外ニ於テ第一
則第四條ニ背テ証
券(○印紙○累紙)
ヲ賣捌致シ候者
ハ其品取揚ケ既
ニ賣捌名(○印

第二條

為替手形ニハ左ノ件ヲ記
載シ振出人記名調印ス可シ

- 一 金額
- 二 振出ノ年月日及ヒ場所
- 三 支拂ノ期限及ヒ場所
- 四 支拂人ノ氏名
- 五 受取人ノ氏名
- 六 受取人又ハ其所有權ヲ受ケタ

紙(○累紙)代ハ百
倍其情ヲ知テ之
ヲ買フ者ハ其品

取上ケ(○印紙○券
紙)代ハ五倍過
料タルキ事

第十一條 證券印

紙貼用致スヘクシ
テ全ク貼用無之
諸帳簿ニ調印イ

ル人ニ支拂フ可キ旨

第三條

為替手形ハ一ノ為替ニ付
同文ノ手形ニ通又ハ三通ヲ振出
スヲ得此場合ニ於テハ各通ニ
番號ヲ附シ内一通ニ對シ支拂ヲ
為シタル時ハ他ノ各通ハ無効ク
ル可キヲ記載ス可シ

第四條

為替手形ノ金額ハ五兩以

クシ候者ハ其人
毎ニ帳簿主ヨリ
取立候過料高
百分ノ一ツ、各
過料タルヘキ事
第十三條 一旦相用
ト調印セシ證券
印紙ヲ再用セン
トメ之ヲ剝取り
調印ヲ洗滅スル

上ニ限ル者トス
第二節 支拂期限
第五條 為替手形ノ支拂期限ハ左
ノ如ク區別ス
一 一覽拂
二 定期拂
三 一覽後定期拂
第六條 一覽拂ノ手形ハ其呈示

者或ハ洗滅シタル
者ト知テ之ヲ再用
スル者又ハ之ヲ賣
買スル者ハ六拾回
以下ノ過料タルヘ
キ事
第十三條 證券
印紙○界紙○質
造スル者又ハ質買
造セシ品ト知テ是

ヲ受ケタル時直ニ支拂フ可キ者
トス
第七條 定期拂ノ手形ハ手形ニ定
メタル期日ニ支拂フ可キ者トス
第八條 一覽後定期拂ノ手形ハ一
覽済ノ日ヨリ其日数ヲ起算シ手
形ニ定メタル期日ニ支拂フ可キ
者トス

四百三十八
四百三十九

ヲ賣買スル者ハ
部テ九拾日以下
過料タルヘキ事

第十四條 前數條

掲ケル処ノ犯人
ヲ見届ケ訴出者
アル片ハ事實取
糾ノ上相違
於テハ其賞トシ
テ其過料金ノ

第九條 一覽拂ノ手形及ヒ一覽後

定期拂ノ手形ハ振出ノ日附ヨリ

三ヶ月以内ニ之ヲ口示ス可シ

第十條 定期拂ノ期限ハ振出ノ日

附ヨリ一覽後定期拂ノ期限ハ一

覽濟ノ日ヨリ六ヶ月以内ト為ス

第三節 為替資金

第十一條 振出人ハ支拂人ニ對シ

半高ヲ下サルヘキ

事

明治八年五月一號ノ布告
ヲ以テ左ノ通り增加ス

第十五條 証券印紙

貼用スヘキヲ界紙
ニ認メ渡ス者ハ減
税高ノ拾倍其受
取タル者ハ減税
高五倍過料タル
ヘキ事

為替資金ヲ交付スルノ義務アル者

トス

第十二條 振出人ヨリ支拂人ニ對シ

貸方計算アル時ハ之ヲ以テ為替資

金ニ供用スルヲ得

第四節 裏書

第十三條 為替手形ハ裏書ヲ以テ

其所有權ヲ移轉スルヲ得

第五節

第一條 儲証書ニ

外國貨幣ヲ以テ
記載セル分ハ其節
ノ相場ヲ以テ内國
通貨ニ計算シ其
高ニ應シ印紙貼用
致スヘキ事

第二條 公債証書
類ハ其証書面

第十四條

裏書ニハ買受人又ハ讓
受人ノ氏名及ヒ年月日ヲ記載シ

賣渡人又ハ讓渡人氏名住所ヲ記
シ調印ス可シ

第十五條

裏書人ハ振出人及ビ自
己以前ノ裏書人ト共ニ自己以後

ノ裏書人及ビ手形所持人ニ對シ
相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者

ノ金高ニ拘ハラズ
賣買正金高ヲ
以テ計算シ其高
ニ應シ印紙貼用
致スヘキ事

第三條 官ノ金穀
諸拜借証文儀
衆庶一般ノ災厄ヨ
リ起レル救助ニ関
スル介ハ○印紙○

トス

第十六條

手形ノ裏面ニ餘白ナキ
時ハ補箋ヲ為シ裏書ヲ為スヲ
得

第十七條

振出人裏書人及ビ支拂
人ハ他人ヲシテ手形ノ支拂ヲ保
證セシムルヲ得

第五節 保證

諸拜借証文儀
衆庶一般ノ災厄ヨ
リ起レル救助ニ関
スル介ハ○印紙○

振出人裏書人及ビ支拂
人ハ他人ヲシテ手形ノ支拂ヲ保
證セシムルヲ得

署紙)ヲ用フルニ及
 ハサレ其ノ餘、諸
 拜借ハ總テ借用
 金穀証文規則
 ノ通リタルヘキ事
 第十四條 印紙貼用
 ル諸證書(事務故
 アリテ書改候節
 ハ新證書(更ニ
 印紙貼用致スヘキ

保證人ハ其保證ノ旨ヲ手形又ハ
 別紙ニ記載ス可シ
 第十八條 振出人裏書人、保證人
 ハ本人義務ヲ欠タル場合ニ於テ
 本人ニ代リ他ノ義務者ト相連帶
 シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス
 第十九條 保證人支拂ヲ為シタル
 時ハ本人ニ代リ其權利ヲ有スル

事
 第五條 凡ソ諸證
 書帳簿ニ誤リテ
 過刺ノ印紙ヲ貼
 用セル者ハ其証
 ニ於テ妨ケナキ事
 第六條 諸證書
 差戻シ又ハ諸切
 手類現品引替
 印紙戻シ主ニテ

者トス
 第六節 引受
 第二十條 定期拂手形及ヒ一覽後
 定期拂手形ノ所持人ハ支拂人ニ
 其引受ヲ求ムルヲ得
 第二十一條 支拂人手形ノ支拂ヲ
 引受ケタル時ハ其旨及ヒ年月日
 ヲ手形ニ記載シ記名調印スヘシ

支拂人ノ手形

四百四十一

ニ調印アル印紙箇
ヲ塗消シ或ハ引キ
裂キ相戻スヘキ事

第七條 各所問屋
ヲ經テ送致スル荷
物送狀ヲ途中(宿

湊問屋)ニ於テ其
依繼送候節、添
狀ハ印紙貼用ニ
及ハサレ右荷物

第二十二條 支拂人手形ノ支拂ヲ

引受ケタル時ハ振出人身代限
処分ヲ受ケタル場合ト虽モ其取
消ヲ為スルヲ得ス

第二十三條 支拂人手形ノ支拂ヲ

引受ケザル時ハ所持人ハ引受
拒ミ証書ヲ受ク可シ

第二十四條 所持人拒ミ証書ヲ

ヲ引分ケ各別送

送候節、新規送
狀ハ規則ノ通印紙

貼用致スヘキ事

第八條 為取換約
定書ノ類ハ双方ト

モ印紙貼用致ス
ヘキ事

第九條 官院省使
府縣廳ニ於テ銀

受ケタル時ハ其旨ヲ電信書留郵

便其他證據トナル可キ手續ヲ以

テ振出人又ハ裏書人ニ通知シテ

為替金額及ヒ諸費用ニ相當スル

抵當又ハ保證人ヲ以テ保證ヲ立

テシムルヲ得
通知ヲ受ケタル裏書人ハ振出人
又ハ自己以前ノ裏書人ニ對シ所

新撰書目三三三

行又ハ為模方等
ハ資金其他官金
相預候節預リ金
証文並ニ預リ金
通帳ハ印紙界紙
ヲ用ナルニ及ハサ
ル事

第十條 削除

第十一條 印稅規則
ニ相續候証書並

持人同一ノ処置ヲ為スヲ得

第二十五條 振出人又ハ裏書人ノ
内既ニ相當ノ保證ヲ立タル者ア
ル時ハ其以後ノ裏書人ハ保證ヲ
立ルノ義務ヲ免ル、者トス

第七節 支拂

第二十六條 手形ニ貨幣ノ種類ヲ記
シタル時ハ其貨幣ヲ以テ支拂フ

ニ帳簿ニ授受致候

儀相頭ノ規則ノ通
過料金並ニ出候後ニ
至ツテモ其証書帳
簿ハ取揚裁判不
相成事

第十二條 前條掲

クル証書ヲ以テ公
裁ヲ仰ガント欲ス
ル節ハ受取主ニ於

可シ

第二十七條 手形所持人ハ支拂期

限ニ於テ其支拂ヲ請求ス可シ若
シ定式ノ祝日祭日或ハ慣習ノ休
業日ニ當ル時ハ其翌日之ヲ請求ス
可シ

第二十八條 手形所持人支拂金ヲ

請取ル時ハ手形ニ領收ノ旨ヲ記載

新撰書目三三三

四百四十三

テ相當ノ印紙ヲ貼
用シ調印済ノ上ハ
取揚々裁判員
第十三條 第十一條
ニ掲クル証書ノ内
界紙可相用処他紙
ヲ相用候証書ヲ以
テ公裁ヲ仰ガント
欲スル節ハ受取主
ニ於テ其証書ニ

シ記名調印シテ金額ト引換ヘ支
拂入ニ交付ス可シ

第二十九條 一ノ為替ニ付キ手形
數通アル時ハ支拂人ハ其引受ヲ
記載シタル手形ニ對シ支拂ヲ為ス
可シ
第三十條 支拂人期限ニ至リ手形
ノ支拂ヲ為サル時ハ手形所持

錢印紙ヲ貼用シ調

印済ノ上ハ取上テ
裁判可致事

第十四條 第十一條

ニ掲クル帳簿ヲ
以テ公裁ヲ仰カン
ト欲スル節ハ帳簿
主ニ於テ相當印紙
ヲ貼用シ調印済
上ハ取揚裁判員

人ハ支拂ノ拒ミ證書ヲ受ク可シ

第三十一條 支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケ

タル者ハ其旨ヲ電信書留郵便
其他証拠トナル可キ手續ヲ以テ振
出人及ヒ各裏書人ニ通知ス可シ

第八節 拒ミ證書

第三十二條 支拂人手形ノ引受又

ハ支拂ヲ拒ム時ハ手形ニ附箋ヲ

事

第十五條 甲乙等ノ
号ヲ各帳ニ記付シ
同金高ヲ記載シ
彼我ニ各一帳ツ
所持シテ相互ニ交
換致ス通帳ノ類ニ
舟トモ被証トナル
ヘキモノハ甲乙トモ
印紙貼用致スヘキ

為シ其旨及ヒ年月日ヲ記載シ記
名調印ス可シ之ヲ拒ミ證書ト為
第三十三條 支拂人拒ミ證書ヲ作
ル一ヲ肯ゼズ又ハ其住所分明ナラ
ス又ハ不在ニテ代理人ナキ時ハ所
持人自ラ其始末ヲ記シ記名調印
シテ郡區役所若クハ戸長役場ノ
証印ヲ受ケ拒ミ證書ニ代用ス可シ

事

第十六條 旅行先ニ
テ相用候帳簿ハ
其管轄地ニ官費
巡回ノ節調査受
候氏便宜ニ任スヘ
キ事

第十七條 最初帳簿
附込見積金高書田
以内ト見込印紙貼

第三十四條

支拂人身代限ノ処分
ヲ受ケタル場合ニ於テハ支拂期
限前ト由モ手形所持人ハ拒ミ證
書ヲ受ケル一ヲ得

第九節

償還ノ要求

第三十五條

手形所持人支拂ノ拒
ミ證書ヲ受ケタル時ハ其日附ヨ
リ十五日以内ニ振出人裏書人ノ

行儀書式文格

四十四

用セス官員ノ調査ヲ受サルモノ漸々附込相高シ誤チ百口以上ニ及ヒ候者ハ附込金高二百圓以内ニテ他ヨリ発覚セサル以前ニ印紙貼用調印上其官轄廳ニ差出調査ヲ受候ニ

中一人若クハ數人ニ對シ為替手形ノ金額期限後ノ利子及ヒ拒ミ證書並ニ通知ノ費用ノ償還ヲ要求スルヲ得

第三十六條 第三十五條ノ要求ニ對シ償還ヲ為シタル裏書人ハ其日ヨリ十五日以内ニ自己以前ノ裏書人又ハ振出人ノ中一人若ク

於テハ犯則ノ限ニ無之事

第十八條 印紙多數用フル節証書面狹隘ニテ貼用シカタクキ分ハ証書裏面ヘ貼用致シ第ニ号圖ノ通調印イタスヘキ事

(明治七年百三十七号) 布告ニテ左ノ項增加

ハ數人ニ對シ自己ノ償還シタル金額及ヒ其利子ヲ要求スルヲ得

第三十七條 振出人ハ為替資金ヲ支拂人ニ交付シタルノ故ヲ以テ償還ノ要求ヲ拒ムヲ得ス

第三十八條 要求ヲ受ケタル者ハ拒ミ證書ヲ附シタル為替手形及

一委任状ノ儀ハ總
テ界紙ヲ用テ可
キ事

第一号圖
証書渡主ノ實印

証
一金何回何拾錢
一金何拾回
一金何拾何回何拾錢

此證據ヲ添ヘタル計算書ト引換
ヘニ非レハ償還ヲ為スニ及ハス

第三十九條 第九條ノ呈示期限第
二十七條ノ支拂請求期限及第
三十五條第三十六條ノ要求期限
ヲ怠リタル者ハ裏書人及ヒ為替
資金ヲ交付シタル振出人ニ對シ要
求ノ權利ヲ失フ者トス但引受ヲ

右通……………
年号月日何誰印
何誰殿

証書渡主ノ實印
証
一金何百何拾回
右者……………

為シ若クハ為替資金ヲ受ケタル
支拂人又ハ資金ヲ交付セサル振
出人ニ對シ第九條第二十七條ノ
期限ニ係ル者ハ振出ノ日附ヨリ
起算シ第三十五條第三十六條ノ
期限ニ係ル者ハ拒ミ証書ノ日附
ヨリ起算シテ三ヶ年間償還ヲ要
求スルヲ得

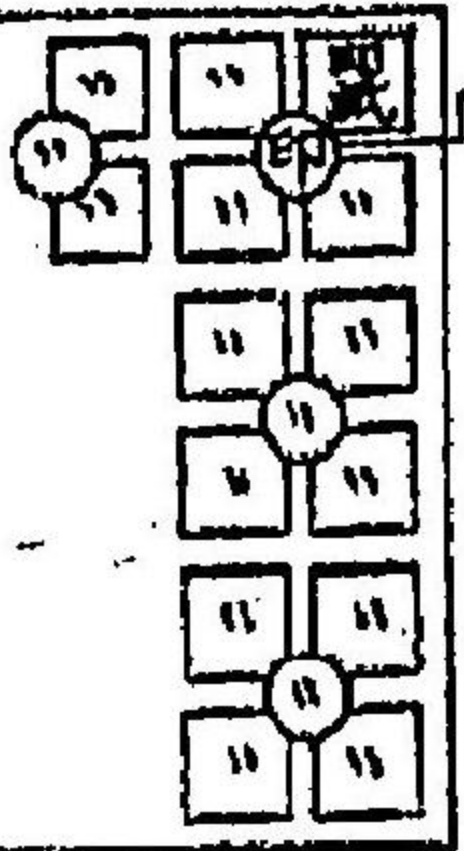
右通……………

年号月日 何誰印

何誰殿

第二号圖

証書白渡手印



第十節 紛失

第四十條

手形所持人 手形ヲ紛失シタル時ハ直ニ新聞紙其他ノ方
法ヲ以テ其手形ノ流通ヲ止ムル
旨ヲ廣告シ又電信書留郵便其
他證據トナル可キ手續ヲ以テ支
拂人ニ通知シ其支拂ヲ止メシム
可シ

第三号書式

帳簿主印



此帳簿内之見積金額

年号月日

第四号書式

新撰書式文格

第四十一條

手形紛失人ハ振出入
ニ紛失ノ旨ヲ證シ代手形ヲ請受
ケ各重書人ヲシテ再ビ之ヲ重書
セシメ更ニ其手形ヲ流通スル
ヲ得

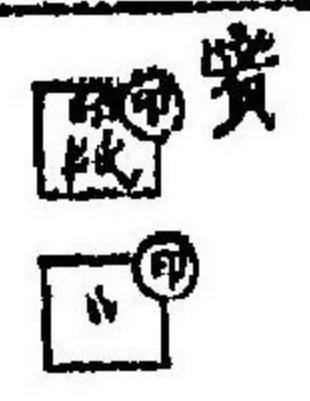
但振出人ハ手形紛失人ヲシテ保
證ヲ立テシムルヲ得

第四十二條

手形紛失人代手形ヲ

新撰書式

帳簿主ノ實印



此帳附送何ノ年限
年号月日

第五号書式

第一類ハ
第二類ハ
合附之金額何ノ百

受ケ得サル時ハ支拂期限ニ至リ
支拂人ニ對シ真正ノ所持人タル
旨ヲ證明シ支拂ヲ請求スルコトヲ
得但支拂人ハ手形紛失人ヲシテ
保證ヲ立テシムルコトヲ得

第三章 約束手形

第四十三條 約束手形ハ振出人記
載ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權

第三類ハ

何年何月ヨリ 満何年
何年何月ヨリ 附込

右之通柳相違無
御座候以上
年号月日 何誰印

明治七年大藏省達
第八十号

證券印税規則ハ希相
成候付テハ管下人
民ハ左之通可相違

ヲ受ケタル人ニ自ラ支拂フ可キ
旨ヲ約束シタル證券ヲ謂フ

第四十四條 約束手形ハ定期拂ニ
シテ金額ハ貳拾圓以上ニ限リ著

トス

第四十五條 為替手形ニ付キ定メ

タル規則ハ第三節第六節其
約束手形ノ性質ニ反スル條目ヲ除

新撰書式

一證券印紙貼用セル
諸帳簿ハ其表紙
ノ端ニ(印紙)又
附シ見積金高首
目未滿ニテ印紙貼
用ニ及ハザル諸帳
簿ニハ前全帳(無
税帳)ト頭然有
税無税ノ分別ヲ
朱ニテ相記シ取

クノ外之ヲ約束手形ニ適用ス可
シ

第三章 通則

第四十六條 第三十五條第三十六
條ノ要求期限ハ路程ニ要スル日
數ハ里毎二一日ノ猶豫ヲ與フル
モノトス

第三十五條第三十六條ノ要求期

引先ノ便ニ供候
様可致事

但證券印紙貼
用アルハ其諸帳
簿ハ萬一印紙
貼用無之候ニ
テ授受致候
節ハ帳簿主ノ
ミナラス取引
之上調印致シ

限及ヒ第九條呈示ノ期限外國ト
關係スルモノハ其路程ニ要スル
相當日數ノ猶豫ヲ與フルモノト
ス

第四十七條 第一節第四節及ヒ

第四十三條第四十四條ノ規程ニ
合セサル手形ハ裏書ヲ以テ所
有權ヲ移轉スルコトヲ得ス

帳簿ノ雜記候トモ不
苦候條此旨布達候
事

但第三類帳簿ニ第

一類第二類ノ雜記致

シ度節ハ第三類ノ

印紙貼用ノ外本文

ニ準シ第三類ノ印

紙ヲ並ニ貼用可致

候尤一類而已ノ雜

同人指因人ハ此手形引換ニ御仕
拂可被成候也
但此手形御仕拂之上ハ(銀三三)
ハ無効ナル事
何所何何何番地
何 某印

年月日
何所何何何番地
何 某殿

此手形若シ組ノニナルハ但書三組之一三云
ヤト記シ組ノ三ナレバ但書二組之一ニ云ヤト記
スル

第三号
裏書ノ書式 (條例第十四條)

記致ス節ハ第一類
ノ印紙ヲ並ニ貼用
可致事
(別紙)

第一類帳簿ニシテ第

二類ノ雜記ニ或ハ第二

類帳簿ニテ第三類ノ

雜記スルモ書式左

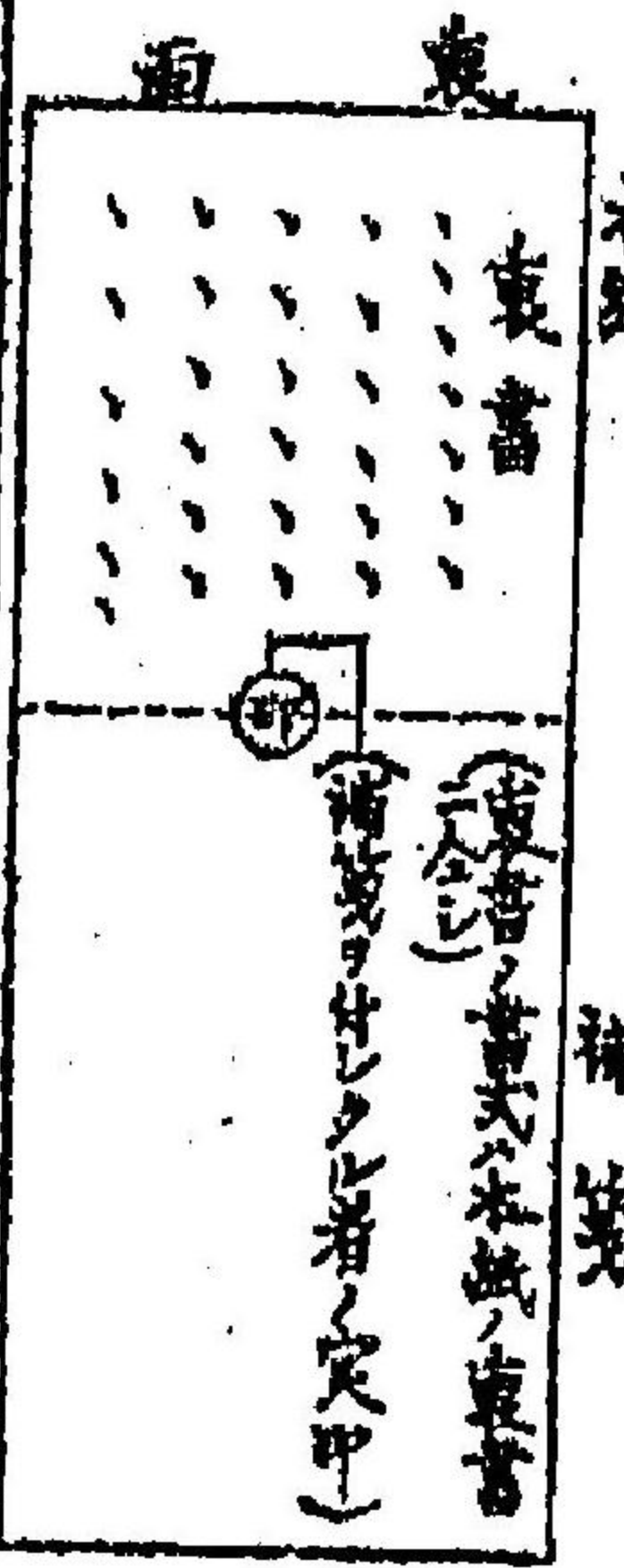
ノ如シ

但第三類印紙貼用

裏
表面之金額何某殿又ハ同人指因人
ノ御仕拂可被成候也
何所何何何番地
何 某印

面
年月日
何 某殿

第四号
裏書補箋ノ様式 (條例第十五條)



裏書
(裏書ノ書式ハ本紙ノ裏書
ノ如シ)

補箋
(補箋ヲ付シタル者ハ定印)

新設書式文格

甲紙

第三類帳簿合計

此帳附以見積金何干

年号月日

第三類帳簿ニシテ第一類又ハ第二類ヲ雜記スルモノ書式左ノ如シ

第一類又ハ第二類印紙ヲ貼用ス

帳簿主ノ實印

第五号

別紙保証ノ書式(條例第十七條)

番号 為替手形

一金ノ...圓也

右金額未何月何日何某殿又向人指國人ハ此手形引換ニ御仕掛可被成候也

年月日 何將何何何番地 何 某印

何 某殿 (保証ノ氏名)

右ニ書寫スル本手形ノ金額何某殿ニ於テ右ノ世無之節ハ此者ニ於テ無相

此帳附以何干年限リ

甲紙

第三類帳簿ニシテ第一類第二類ヲ雜記スルモノ書式左ノ如シ

都テ第三類印紙ヲ貼用ス

帳簿主ノ實印

此帳附以何干年限リ

甲紙

第六号

引受ノ書式(條例第二十條)

番号 為替手形

達任掛可申候也

年月日 何將何何何番地 何 某印

何 某殿 (保証ノ氏名)

保証ノ旨ヲ手形面ニ記載スルハ其保証ヲ受ル者ノ氏名ノ次ニ左ノ如ク記載スヘシ

右何某保証人

何將何何何番地 何 某印

何 某殿

新撰書式文格

其運搬料ノ請取
証書ヲ荷主ノ者
ニ寄別通ニセテ
シテ一紙証書ヲ
要スル時ハ請取
書面總入金高ヲ
拾円内外ノ區別
ヲ分テ兩種ヲ度
一銭印紙貼用不
苦候事

年月日

何某印
(支那人氏名)

第九号

條例第三十三條始末書
(支那人拒テ証書ヲ作ルコト肯セザル
時ノ文附)

別紙為替手形(規定期限内ニ於テ引
受期日ニ至リ仕拂)
ヲ請求セシニ支那人何某ニ於テ之ヲ拒
ミ且拒テ証書ヲ作ルコト肯セザルニ付
條例第三十三條ニ拠リ此ニ其始末ヲ
自記致シ候也
年月日 何某印
何某印

但諸物貨及真
運搬料共金高
拾円以下ノ節ハ
双方請取書印
紙貼用不及候得
共一通證書最
ニ候節總金高
拾円以上ニ及ビ
候ハ本文之通
印紙貼付可致候

第十号

全上(支那人住所不明ナリ時ノ文例)

前書ノ趣相違無之候也
年月日 郡區役所長 役場証印
別紙為替手形(規定期限内ニ於テ引
受期日ニ至リ仕拂)請求ノ為メ
本手形ニ指シタル支那人何某住
所何縣何町村何番地ニ居越候
処住所不明ニ付條例第三十三條
ニ拠リ此ニ其始末ヲ自記致シ候也
年月日 何某印
何某印

新撰書式文格

何某印

車

一、仮令ハ東京ヨリ各所問屋ノ手ヲ経長崎或ハ青森等ニ達スル物貨(金高拾円以上ノ者)ハ請継數回ニ候得共最前申問屋ヨリ前書箇條ニ取書印紙アル請取書

前書之趣相違無之候也
昨、日、郡、區、役、所、若、ク、ハ、長、役、場、証、印

第十一号
公上(支拂人不在ナル時ノ文例)

別紙為替手形(切掛)請求ノ為支拂人何某方ハ差越矣間公人不在ニテ代理人無之ニ付條例第三三條ニ拠リ此ニ其始末ヲ自記致候也
何府何州何番地
何某印
年月日

前書之趣相違無之候也
昨、日、郡、區、役、所、若、ク、ハ、長、役、場、証、印

第十号
約束手形書式(條例第三三條)

金、一、圓

番号

約束手形

一、金、一、圓也

右金額未何月何日貴殿又ハ

受取人	印
年月日	印

類ヲ荷主ハ相渡シ運輸ノ物價ニ取付アル元送狀附着有之候上ハ内丁問屋等ニ於テ授受之證書ハ勿論添送狀等ニ至ル迄渾テ印紙貼用不爲得共長崎青森ノ如キ結尾ノ場

其荷物着の上
八荷請書ヨリ置
候受取證書ハ印
紙貼用可為候
事

右之通可相心得儀

大尾

貴殿ノ指圖人ハ此手形引換ニ
無相違支拂可申候也

何府何町何番地

年月日

何府何町何番地

何某殿

何某印

約束手形ニ因テ裏書人ニ補券保証領
收指ニ證書始末書等ノ書式ハ總テ為
替手形ノ文例ニ準ズベシ

新撰書式文格 大尾

明治十五年十一月九日版權免許
同 十六年十二月 刺成發兌

京都府平民 定價金五十錢

編輯兼出版人

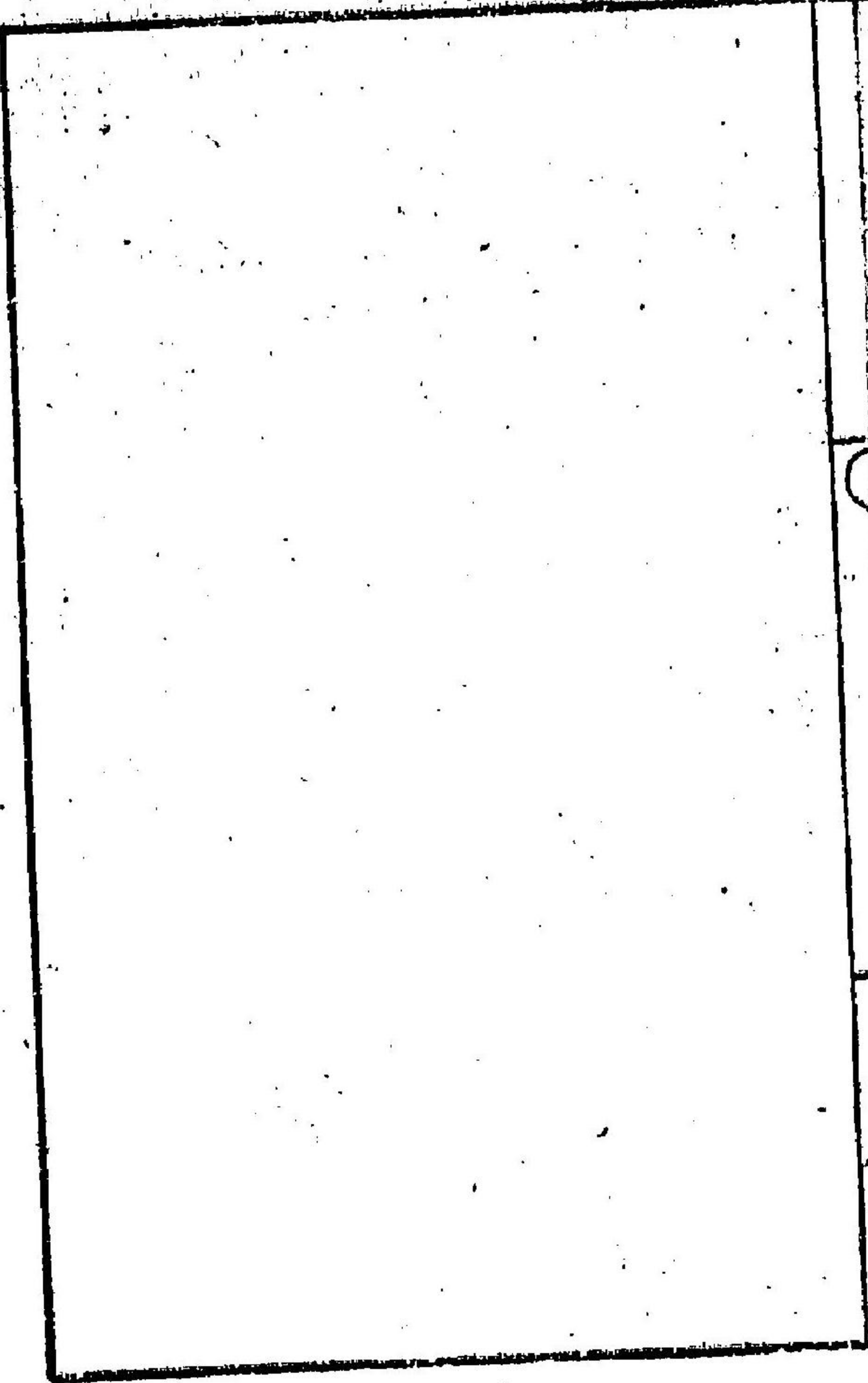
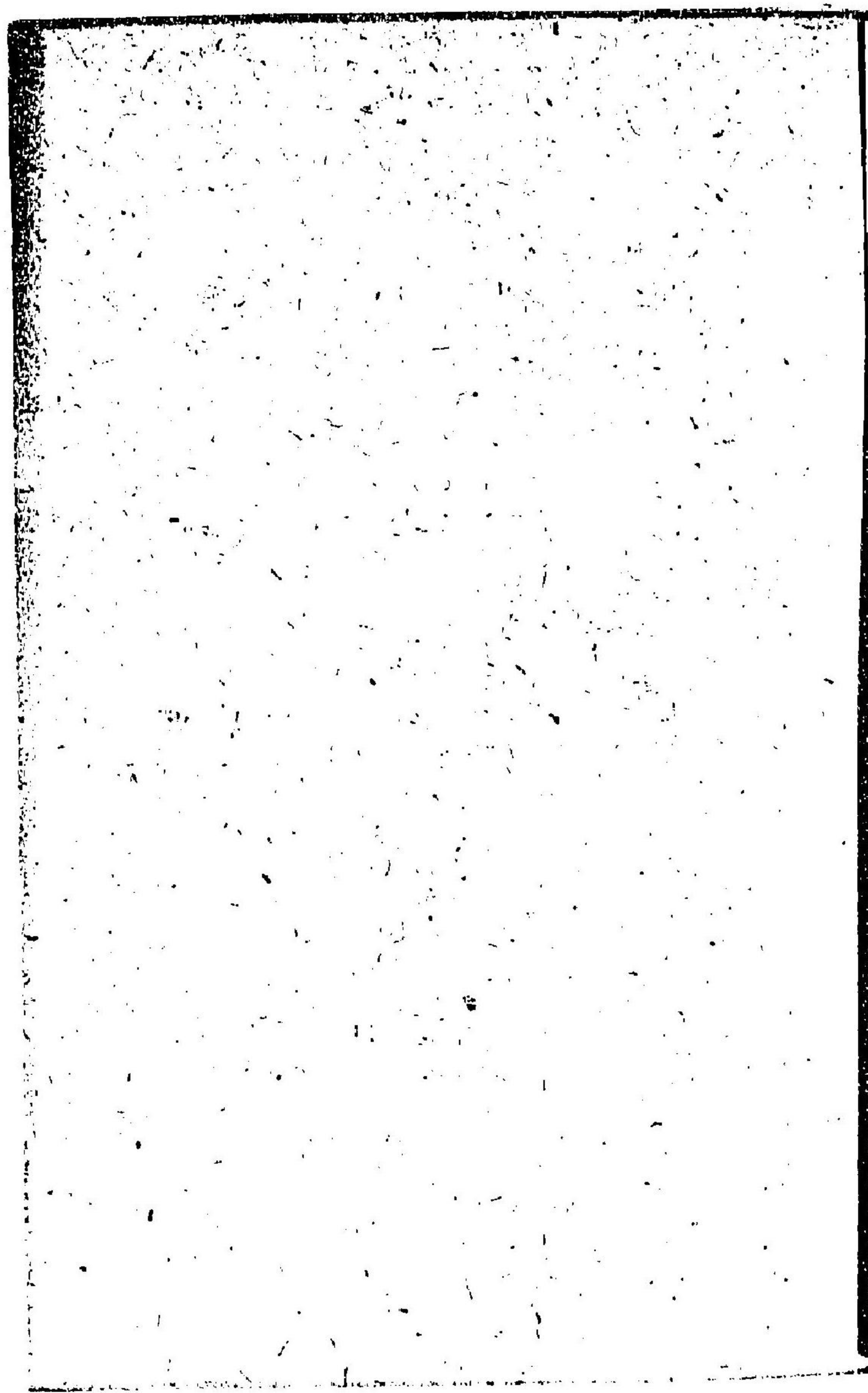
大島 細吉

下京區第十三組八文字町
十六番戶

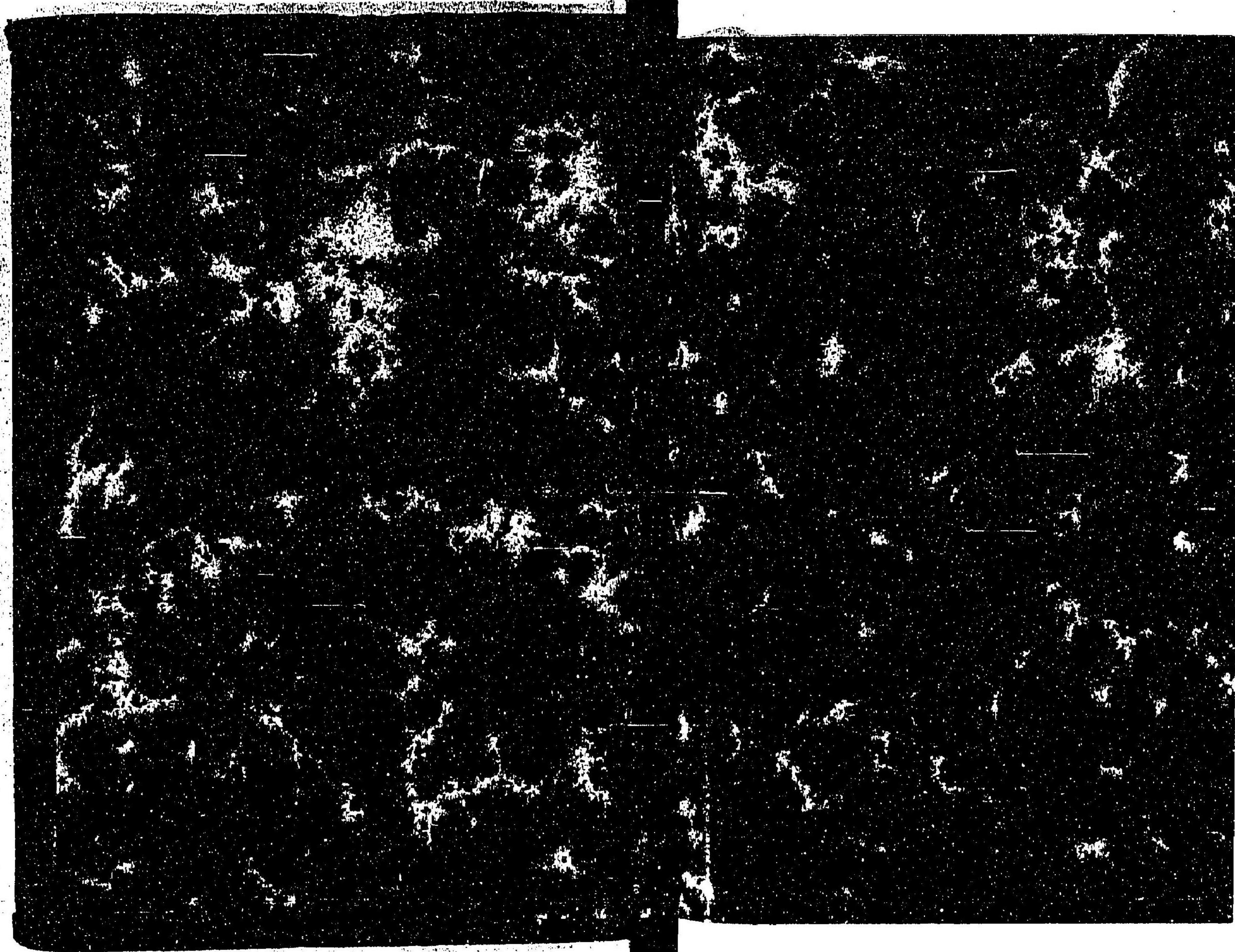
京都寺町通四條上ノ町

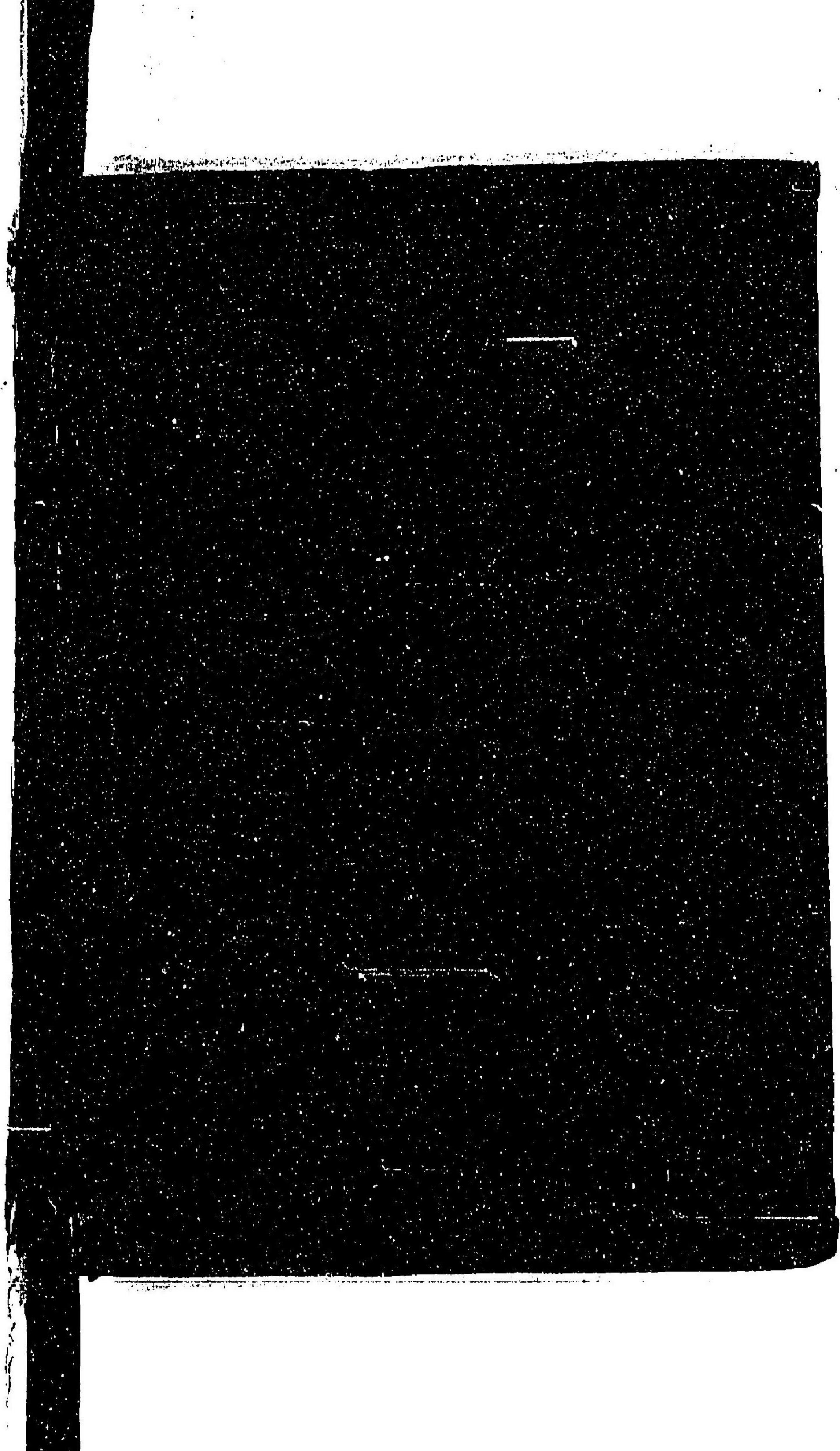
專賣書林

田中治兵衛



C





030556-000-5

特62-24

新撰書式文格

大島 細吉/編

M16

BBA-1046



